

様式第 1 号

2020 年 6 月 29 日

兵庫県知事 殿

〔設置者の名称〕

学校法人兵庫科学技術学園

〔代表者の役職〕 理事長

〔代表者の氏名〕 田畑 利彦

大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	阪神自動車航空鉄道専門学校
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学・短期大学・高等専門学校・ <u>専門学校</u>)
大学等の所在地	兵庫県神戸市長田区林山町 27-1
学長又は校長の氏名	鞍野 貴幸
設置者の名称	学校法人兵庫科学技術学園
設置者の主たる事務所の所在地	兵庫県神戸市長田区林山町 27-1
設置者の代表者の氏名	田畑 利彦
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☐ 確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 1 項に基づき確認申請書を提出します。

☒ 更新確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 3 項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☒ この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。

☒ 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。

☒ 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

☒ この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取

り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- ☒ 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第7条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	事務局・山口倫尚	078-621-5111	yamaguchi@hits.ac.jp
第2号の1	事務局・山口倫尚	078-621-5111	yamaguchi@hits.ac.jp
第2号の2	事務局・山口倫尚	078-621-5111	yamaguchi@hits.ac.jp
第2号の3	事務局・山口倫尚	078-621-5111	yamaguchi@hits.ac.jp
第2号の4	事務局・山口倫尚	078-621-5111	yamaguchi@hits.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点 (☒) を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- ☒ 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- ☒ 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- ☒ 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- ☐ 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- ☒ 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- ☒ 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

- ☒ 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- ☒ 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校名	阪神自動車航空鉄道専門学校
設置者名	学校法人兵庫科学技術学園

I 直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	678,764,098 円	241,153,514 円	437,610,584 円
申請2年度前の決算	230,954,285 円	271,964,674 円	▲41,010,389 円
申請3年度前の決算	186,825,846 円	368,736,159 円	▲181,910,313 円

II 直前の決算の貸借対照表における「運用資産－外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	1,066,828,522 円	739,181,103 円	327,647,419 円

III 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率 (F)/(E)
今年度(申請年度)	320 人	198 人	61%
前年度	280 人	197 人	70%
前々年度	280 人	190 人	67%

(IIの補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の 名称	資産の内容	申請前年度の決算に おける金額
		円
		円
		円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の 名称	負債の内容	申請前年度の決算に おける金額
		円
		円
		円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	阪神自動車航空鉄道専門学校
設置者名	学校法人兵庫科学技術学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	自動車整備工学科	夜・通信	1945 時間	160 時間	
	二輪整備工学科	夜・通信	2034 時間	160 時間	
	鉄道システム学科	夜・通信	836 時間	160 時間	
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<http://www.hits.ac.jp>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	阪神自動車航空鉄道専門学校
設置者名	学校法人兵庫科学技術学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(株)ジーライオン 代表取締役	令和3年 12月25日	経営計画の策定 法務、財務
非常勤	(株)ライガーホールディングスインターナショナル 代表取締役	令和3年 12月25日	経営計画の策定 法務、財務
非常勤	(株)クインオート 代表取締役	令和3年 12月25日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	(株)モトーレン神戸 取締役 アフターセールス部 部長	令和3年 12月25日	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	阪神自動車航空鉄道専門学校
設置者名	学校法人兵庫科学技術学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
各科目毎にシラバスを作成し、授業初日に配布している。	
授業計画書の公表方法	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
各科目、50点以上を合格としている。 基準以下の場合、再試験、再々試験において、基準点に達しなければ、その科目を履修したと認めない。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) GPAは実施していないが、全ての成績は学内において開示している。 成績の分布状況の把握をしている。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業基準は各科目の理由及び、合計授業時間が基準をクリアしていること。 自動車整備工学科、二輪整備工学科は、学科 600 時間、実習 1200 時間の合計 1800 時間以上。 鉄道システム学科は、1700 時間以上であること。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	阪神自動車航空鉄道専門学校
設置者名	学校法人兵庫科学技術学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf
財産目録	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf
事業報告書	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	自動車整備工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	講義
2 年	昼	2, 158 時間 単位時間／単位					
			845 時間	時間	1313 時間	時間	時間
		単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150 人		119 人	35 人	7 人	1 人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）国土交通省より定められた内容時間に則って2年間の授業計画を組んで実施している。
成績評価の基準・方法
（概要）各科目、100点：5、89点～76点：4、75点～56点：3、55点～50点：2、49点～0点：1の5段階評価とし、50点未満を欠点とし、その科目を履修したと認めない。
卒業・進級の認定基準
（概要）履修するすべての科目について、欠点でないこと。年間の欠席日数が20時間を超えていないこと。
学修支援等
（概要）必要に応じ、適宜補習を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
61 人 (100%)	0 人 (0%)	61 人 (100%)	人 (%)
（主な就職、業界等）自動車ディーラー			
（就職指導内容）就職ガイダンスの実施、求人票の掲示、会社訪問、企業セミナーの実施、個別相談、個別面接指導 等			
（主な学修成果（資格・検定等））国家 2 級ガソリン自動車整備士、国家 2 級ジーゼル自動車整備士、国家 2 級二輪自動車整備士の資格取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
126 人	9 人	7.1%
（中途退学の主な理由） 家庭の事情、体調不良、進路変更、金銭的事情 等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 生活指導、学費分割相談、カウンセリング 等		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	二輪整備工学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	講義	
2 年	昼	2,211 時間 単位時間／単位	796 時間	時間	1415 時間	時間	時間	
			単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50 人		22 人	0 人	2 人	1 人	3 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）国土交通省より定められた内容時間に則って 2 年間の授業計画を組んで実施している。
成績評価の基準・方法
（概要）各科目、100 点：5、89 点～76 点：4、75 点～56 点：3、55 点～50 点：2、49 点～0 点：1 の 5 段階評価とし、50 点未満を欠点とし、その科目を履修したと認めない。
卒業・進級の認定基準
（概要）履修するすべての科目について、欠点でないこと。年間の欠席日数が 20 時間を超えていないこと。
学修支援等
（概要）必要に応じ、適宜補習を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10 人 (100%)	0 人 (0%)	10 人 (100%)	人 (%)
（主な就職、業界等）二輪業界			
（就職指導内容）就職ガイダンスの実施、求人票の掲示、会社訪問、 個別相談、個別面接指導 等			
（主な学修成果（資格・検定等））国家 2 級ガソリン自動車整備士、国家 2 級二輪自動車整備士の資格取得、国家 3 級二輪自動車整備士の資格取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） 家庭の事情、体調不良、進路変更、金銭的事情 等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 生活指導、学費分割相談、カウンセリング 等		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	鉄道システム学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	講義
2 年	昼	1,891 時間 単位時間／単位	1891 時間	時間	時間	時間	時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		45 人	0 人	3 人	5 人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）鉄道業界で働くために必要な知識を幅広く習得できるように 2 年間を通してカリキュラムを組んでいる。

成績評価の基準・方法

（概要）各科目、100 点：5、89 点～76 点：4、75 点～56 点：3、55 点～50 点：2、49 点～0 点：1 の 5 段階評価とし、50 点未満を欠点とし、その科目を履修したと認めない。

卒業・進級の認定基準

（概要）履修するすべての科目について、欠点でないこと。年間の欠席日数が 20 時間を超えていないこと。

学修支援等

（概要）必要に応じ、適宜補習を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23 人 (100%)	0 人 (0%)	23 人 (100%)	人 (%)
（主な就職、業界等）鉄道業界			
（就職指導内容）就職ガイダンスの実施、求人票の掲示、会社訪問、 個別相談、個別面接指導 等			
（主な学修成果（資格・検定等））電気工事士等の資格取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	1 人	5.3%
（中途退学の主な理由） 家庭の事情、体調不良、進路変更、金銭的事情 等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 生活指導、学費分割相談、カウンセリング 等		

様式第 1 号

2020 年 6 月 29 日

兵庫県知事 殿

〔設置者の名称〕 学校法人兵庫科学技術学園

〔代表者の役職〕 理事長 〔代表者の氏名〕 田畑 利彦

大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	阪神自動車航空鉄道専門学校
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学・短期大学・高等専門学校・ <u>専門学校</u>)
大学等の所在地	兵庫県神戸市長田区林山町 27-1
学長又は校長の氏名	鞍野 貴幸
設置者の名称	学校法人兵庫科学技術学園
設置者の主たる事務所の所在地	兵庫県神戸市長田区林山町 27-1
設置者の代表者の氏名	田畑 利彦
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☐ 確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 1 項に基づき確認申請書を提出します。

☒ 更新確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 3 項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☒ この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。

☒ 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。

☒ 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

☒ この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取

り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- ☒ 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第7条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	事務局・山口倫尚	078-621-5111	yamaguchi@hits.ac.jp
第2号の1	事務局・山口倫尚	078-621-5111	yamaguchi@hits.ac.jp
第2号の2	事務局・山口倫尚	078-621-5111	yamaguchi@hits.ac.jp
第2号の3	事務局・山口倫尚	078-621-5111	yamaguchi@hits.ac.jp
第2号の4	事務局・山口倫尚	078-621-5111	yamaguchi@hits.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点 (☑) を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- ☒ 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- ☒ 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)①学外者である理事の複数配置」関係

- ☒ 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- ☐ 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- ☒ 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- ☒ 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

- ☒ 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- ☒ 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校名	阪神自動車航空鉄道専門学校
設置者名	学校法人兵庫科学技術学園

I 直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	678,764,098 円	241,153,514 円	437,610,584 円
申請2年度前の決算	230,954,285 円	271,964,674 円	▲41,010,389 円
申請3年度前の決算	186,825,846 円	368,736,159 円	▲181,910,313 円

II 直前の決算の貸借対照表における「運用資産－外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	1,066,828,522 円	739,181,103 円	327,647,419 円

III 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率 (F)/(E)
今年度(申請年度)	320 人	198 人	61%
前年度	280 人	197 人	70%
前々年度	280 人	190 人	67%

(IIの補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の 名称	資産の内容	申請前年度の決算に おける金額
		円
		円
		円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の 名称	負債の内容	申請前年度の決算に おける金額
		円
		円
		円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

様式第 1 号

2020 年 6 月 29 日

兵庫県知事 殿

〔設置者の名称〕 学校法人兵庫科学技術学園

〔代表者の役職〕 理事長 〔代表者の氏名〕 田畑 利彦

大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	阪神自動車航空鉄道専門学校
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学・短期大学・高等専門学校・ <u>専門学校</u>)
大学等の所在地	兵庫県神戸市長田区林山町 27-1
学長又は校長の氏名	鞍野 貴幸
設置者の名称	学校法人兵庫科学技術学園
設置者の主たる事務所の所在地	兵庫県神戸市長田区林山町 27-1
設置者の代表者の氏名	田畑 利彦
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☐ 確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 1 項に基づき確認申請書を提出します。

☒ 更新確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 3 項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☒ この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。

☒ 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。

☒ 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

☒ この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取

り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- ☒ 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第7条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	事務局・山口倫尚	078-621-5111	yamaguchi@hits.ac.jp
第2号の1	事務局・山口倫尚	078-621-5111	yamaguchi@hits.ac.jp
第2号の2	事務局・山口倫尚	078-621-5111	yamaguchi@hits.ac.jp
第2号の3	事務局・山口倫尚	078-621-5111	yamaguchi@hits.ac.jp
第2号の4	事務局・山口倫尚	078-621-5111	yamaguchi@hits.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点 (☒) を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- ☒ 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- ☒ 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- ☒ 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- ☐ 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- ☒ 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- ☒ 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

- ☒ 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- ☒ 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校名	阪神自動車航空鉄道専門学校
設置者名	学校法人兵庫科学技術学園

I 直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	678,764,098 円	241,153,514 円	437,610,584 円
申請2年度前の決算	230,954,285 円	271,964,674 円	▲41,010,389 円
申請3年度前の決算	186,825,846 円	368,736,159 円	▲181,910,313 円

II 直前の決算の貸借対照表における「運用資産－外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	1,066,828,522 円	739,181,103 円	327,647,419 円

III 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率 (F)/(E)
今年度(申請年度)	320 人	198 人	61%
前年度	280 人	197 人	70%
前々年度	280 人	190 人	67%

(IIの補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の 名称	資産の内容	申請前年度の決算に おける金額
		円
		円
		円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の 名称	負債の内容	申請前年度の決算に おける金額
		円
		円
		円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	阪神自動車航空鉄道専門学校
設置者名	学校法人兵庫科学技術学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	自動車整備工学科	夜・通信	1945 時間	160 時間	
	二輪整備工学科	夜・通信	2034 時間	160 時間	
	鉄道システム学科	夜・通信	836 時間	160 時間	
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<http://www.hits.ac.jp>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	阪神自動車航空鉄道専門学校
設置者名	学校法人兵庫科学技術学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(株)ジーライオン 代表取締役	令和3年 12月25日	経営計画の策定 法務、財務
非常勤	(株)ライガーホールディングスインターナショナル 代表取締役	令和3年 12月25日	経営計画の策定 法務、財務
非常勤	(株)クインオート 代表取締役	令和3年 12月25日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	(株)モトーレン神戸 取締役 アフターセールス部 部長	令和3年 12月25日	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	阪神自動車航空鉄道専門学校
設置者名	学校法人兵庫科学技術学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
各科目毎にシラバスを作成し、授業初日に配布している。	
授業計画書の公表方法	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
各科目、50点以上を合格としている。 基準以下の場合、再試験、再々試験において、基準点に達しなければ、その科目を履修したと認めない。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) GPAは実施していないが、全ての成績は学内において開示している。 成績の分布状況の把握をしている。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業基準は各科目の理由及び、合計授業時間が基準をクリアしていること。 自動車整備工学科、二輪整備工学科は、学科600時間、実習1200時間の合計1800時間以上。 鉄道システム学科は、1700時間以上であること。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	阪神自動車航空鉄道専門学校
設置者名	学校法人兵庫科学技術学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf
財産目録	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf
事業報告書	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	自動車整備工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	講義
2 年	昼	2, 158 時間 単位時間／単位					
			845 時間	時間	1313 時間	時間	時間
		単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150 人		119 人	35 人	7 人	1 人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）国土交通省より定められた内容時間に則って 2 年間の授業計画を組んで実施している。

成績評価の基準・方法

（概要）各科目、100 点：5、89 点～76 点：4、75 点～56 点：3、55 点～50 点：2、49 点～0 点：1 の 5 段階評価とし、50 点未満を欠点とし、その科目を履修したと認めない。

卒業・進級の認定基準

（概要）履修するすべての科目について、欠点でないこと。年間の欠席日数が 20 時間を超えていないこと。

学修支援等

（概要）必要に応じ、適宜補習を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
61 人 (100%)	0 人 (0%)	61 人 (100%)	人 (%)
（主な就職、業界等）自動車ディーラー			
（就職指導内容）就職ガイダンスの実施、求人票の掲示、会社訪問、企業セミナーの実施、個別相談、個別面接指導 等			
（主な学修成果（資格・検定等））国家 2 級ガソリン自動車整備士、国家 2 級ジーゼル自動車整備士、国家 2 級二輪自動車整備士の資格取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
126 人	9 人	7.1%
（中途退学の主な理由） 家庭の事情、体調不良、進路変更、金銭的事情 等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 生活指導、学費分割相談、カウンセリング 等		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	二輪整備工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	講義
2 年	昼	2,211 時間 単位時間／単位	796 時間	時間	1415 時間	時間	時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50 人		22 人	0 人	2 人	1 人	3 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要）国土交通省より定められた内容時間に則って 2 年間の授業計画を組んで実施している。	
成績評価の基準・方法	
（概要）各科目、100 点：5、89 点～76 点：4、75 点～56 点：3、55 点～50 点：2、49 点～0 点：1 の 5 段階評価とし、50 点未満を欠点とし、その科目を履修したと認めない。	
卒業・進級の認定基準	
（概要）履修するすべての科目について、欠点でないこと。年間の欠席日数が 20 時間を超えていないこと。	
学修支援等	
（概要）必要に応じ、適宜補習を実施している。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10 人 (100%)	0 人 (0%)	10 人 (100%)	人 (%)
（主な就職、業界等）二輪業界			
（就職指導内容）就職ガイダンスの実施、求人票の掲示、会社訪問、 個別相談、個別面接指導 等			
（主な学修成果（資格・検定等））国家 2 級ガソリン自動車整備士、国家 2 級二輪自動車整備士の資格取得、国家 3 級二輪自動車整備士の資格取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） 家庭の事情、体調不良、進路変更、金銭的事情 等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 生活指導、学費分割相談、カウンセリング 等		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	鉄道システム学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	講義
2 年	昼	1,891 時間 単位時間／単位	1891 時間	時間	時間	時間	時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		45 人	0 人	3 人	5 人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要）鉄道業界で働くために必要な知識を幅広く習得できるように 2 年間を通してカリキュラムを組んでいる。	
成績評価の基準・方法	
（概要）各科目、100 点：5、89 点～76 点：4、75 点～56 点：3、55 点～50 点：2、49 点～0 点：1 の 5 段階評価とし、50 点未満を欠点とし、その科目を履修したと認めない。	
卒業・進級の認定基準	
（概要）履修するすべての科目について、欠点でないこと。年間の欠席日数が 20 時間を超えていないこと。	
学修支援等	
（概要）必要に応じ、適宜補習を実施している。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23 人 (100%)	0 人 (0%)	23 人 (100%)	人 (%)
（主な就職、業界等）鉄道業界			
（就職指導内容）就職ガイダンスの実施、求人票の掲示、会社訪問、 個別相談、個別面接指導 等			
（主な学修成果（資格・検定等））電気工事士等の資格取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	1 人	5.3%
（中途退学の主な理由） 家庭の事情、体調不良、進路変更、金銭的事情 等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 生活指導、学費分割相談、カウンセリング 等		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
自動車整備工学科	150,000 円	500,000 円	550,000 円	
二輪整備工学科	150,000 円	500,000 円	550,000 円	
鉄道システム学科	150,000 円	500,000 円	500,000 円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				
・ A0 入学選考、指定校推薦選考、特待生選考等の選考方法による減免制度あり ・ OB 在校生紹介、遠隔地支援、女性支援、再進学支援等の制度による減免制度あり				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
(実施方法) 自己評価 (教育理念・目的、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受け入れ募集、財務、法令等の遵守) について評価。 目標設定→実行→評価→改善のサイクルを通じて活用する。 (体制) 関連企業、卒業生、在校生の保護者で構成。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人 兵庫県自動車整備振興会 神戸西支部	令和2年3月31日	企業委員
日産プリンス兵庫販売㈱サービス部	令和2年3月31日	企業委員
㈱モトーレン阪神	令和2年3月31日	卒業生
兵庫三菱自動車販売㈱	令和2年3月31日	卒業生
在校生の保護者	令和2年3月31日	保護者
在校生の保護者	令和2年3月31日	保護者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
https://www.hits.ac.jp/PDF/guideline.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
http://www.hits.ac.jp

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	阪神自動車航空鉄道専門学校
設置者名	学校法人兵庫科学技術学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		0人	0人	0人
内 訳	第Ⅰ区分	0人	0人	
	第Ⅱ区分	0人	0人	
	第Ⅲ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				0人
（備考）				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下）	人	0人	0人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に 連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期 後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

自動車整備工学科(教員全員が実務経験有り)

[illegible]

二輪整備工学科(教員全員が実務経験有り)

[illegible]

鉄道システム学科

科目名	時間数	科目名	時間数	科目名	時間数	科目名	時間数	科目名	時間数
鉄道工学Ⅰ	154	電気Ⅰ	61	安全輸送Ⅰ	116	鉄道車両Ⅰ	59	鉄道史	60
鉄道工学Ⅱ	156	電気Ⅱ	64	安全輸送Ⅱ	106	鉄道車両Ⅱ	60		
時間合計		836							

令和2年度 自動車整備工 学科

科目名	基礎自動車	学年	1	学期	1	担当教員名	西川、岩田、二瓶
実施日	6月1日～2日	実施時間	1限～4限				
授業の概要	工具の名称、使い方及び自動車の基礎的な事柄について概要を理解させる。						
授業の方法	1学年を3班に分けてローテーションで実施						
到達目標	工具の名称、使い方及び自動車の基礎的な事柄について概要を知る。						
評価基準	ここでは評価はしません。						
評価方法							
使用教科書	基礎自動車工学、基礎自動車整備						
授業計画							
回 数	項 目		内 容				
1回	工具の名称、使い方		整備に使用する機工具の名称、使い方についての説明。				
2回	エンジン、シャシ、電気の各分		車両全体及び、エンジン、シャシ、電気の各装置の概要についての説明。				
3回							
4回							
5回							
6回							
7回							
8回							
9回							
10回							
11回							
12回							
13回							
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考	各授業に入る前に、車全体の概要、各部の概要、工具についての知識を付けて下さい。						

令和2年度 自動車整備工 学科

科目名	エンジン1	学年	1	学期	1	担当教員名	西川
実施日	火～金曜日	実施時間	1限～4限		14日間		
授業の概要	エンジン(レシプロ)の概要、基礎を理解し、基本的なエンジン分解、組立、測定作業をする。						
授業の方法	構造、作動を板書、映像、実物などで説明し、単体エンジンを分解、組立、測定作業をする。						
到達目標	基本的なエンジンの構造、作動を理解し、実習作業を身に付ける。						
評価基準	期末試験70点(学科35点、実技35点)・中間点25点(小テスト)・平常点5点(授業態度、レポート)。						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	3級ガソリンエンジン、3級ディーゼルエンジン。						
授業計画							
回 数	項 目		内 容				
1回	エンジンの基本原理		エンジンの基本原理を理解し、可動エンジンを体感する。				
2回	構成部品について (1)		シリンダブロック、クランクシャフトについて理解する。				
3回	構成部品について (2)		ピストン、コンロッド、エンジンベアリングについて理解する。				
4回	構成部品について (3)		シリンダヘッド、フライホイールについて理解する。				
5回	構成部品について (4)		カムシャフト、バルブ開閉機構について理解する。				
6回	測定器具の使用方法について		ノギス、マイクロメータ、ダイヤルゲージの使用方法を理解し、測定練習をする。				
7回	エンジン分解		ガソリンエンジン(マツダZ5型)分解要領を説明し、分解作業をする。				
8回	分解部品の測定		ピストン外径、カムリフトなど各部測定作業をする。				
9回	シリンダヘッド分解、組立		要領を説明し、分解、組立をする。(バルブ脱着練習含む)				
10回	エンジン組立		組立要領を説明し組み立てる。組立完了、完成チェック。				
11回	ディーゼルエンジンについて		構成部品及び構造、作動を理解する。				
12回	シリンダヘッド分解、他作業		ディーゼルエンジン(トヨタ1C型)ヘッド分解、バルブすり合わせ、脱着練習。				
13回	シリンダヘッド組立		金属亀裂探傷法を説明し、探傷作業を実施する。ヘッド組立完成チェック。				
14回	最終日、まとめ		総復習、小テスト実施解答解説、レポートまとめ提出、工具チェック。				
備考	・工具の名称、使用方法などは基本から説明します。 ・作業については、安全作業の基本から説明します。(安全第一に授業を進めます) ・班毎(3～4名)に作業をするのでコミュニケーションを取るように心掛けて下さい。						

科目名	エンジン 2	学年	1	学期	2	担当教員名	二瓶 英康
実施日	火～金曜日	実施 時間	1～4 時限		20 日間		
授業の概要	潤滑装置, 冷却装置, 電子制御装置, V6 エンジンの分解・測定・組立を理解する。						
授業の方法	構造, 作動, 役割を板書, 教科書, 映像, 実物などで説明し, 単体部品を使用して作業する。						
到達目標	構造, 名称, 役割を理解し, 整備法を身につける。						
評価基準	期末試験 70 点(学科 35 点、実技 35 点)・中間点 25 点(小テスト)・平常点 5 点(授業態度、レポート)						
評 価	90 点以上を 5, 76 点以上を 4, 56 点以上を 3, 50 点以上を 2 とし, 50 点未満は 1 とする。(1 は欠点)						
使用教科書	3 級・2 級ガソリン・エンジン, 3 級・2 級ディーゼル・エンジン						
授業計画							
回 数	項 目	内 容					
1 回	エンジン(1)	ガソリン・エンジンの燃焼, 性能について					
2 回	潤滑装置(1)	オイルの循環, 構造, 機能, 整備, 潤滑剤, 故障探求について					
3 回	冷却装置(1)	冷却水の循環, 構造, 機能, 整備, 電動ファン, 故障探求について					
4 回	電子制御装置(1)	電子制御装置の概要, 構造, 機能(基礎), 中間試験①実施, 解答, 解説					
5 回	エンジン(2)	ガソリン・エンジンの排出ガス, 対応策について					
6 回	エンジン(3)	バルブ・タイミング・ダイヤグラム(1)					
7 回	エンジン(4)	バルブ・タイミング・ダイヤグラム(2)					
8 回	エンジン(5)	バルブ・タイミング・ダイヤグラム(3), バルブ・クリアランス(復習, 応用)					
9 回	エンジン(6)	吸排気装置について					
10 回	エンジン(7)	スキッシュ・エリアについて, 燃料装置について					
11 回	エンジン(8)	電子制御装置(1)					
12 回	エンジン(9)	電子制御装置(2)					
13 回	エンジン(10)	電子制御装置(3)					
14 回	エンジン(11)	V6エンジン分解・測定・組立・整備, 故障探求について					
15 回	エンジン(12)	V6エンジン分解・測定・組立・整備, メタルについて					
16 回	エンジン(13)	V6エンジン分解・測定・組立・整備, ピストン・コンロッドについて					
17 回	エンジン(14)	ディーゼル・エンジンの燃焼, 性能について					
18 回	エンジン(15)	ディーゼル・エンジンの排出ガス, 対応策について					
19 回	復習	総復習, 中間テスト②実施					
20 回	最終日, まとめ	レポート作成, 工具チェック, 中間テスト②解答, 解説					
備考	ガソリン・エンジンの燃焼, 構造, 機能について学習し, 2 級ガソリン自動車の国家試験に対応できるようにする。 入社後の実践作業に活用することができる能力を育てる。						

科目名	エンジン3	学年	1	学期	3	担当教員名	辻本 純孝
実施日	火～金曜日	実施時間	4限		トータル10日間		
授業の概要	ジーゼルエンジンの燃料系統を学ぶ						
授業の方法	噴射ポンプ→コモンレール、ユニットインジェクタと燃料系統の進化を説明						
到達目標	コモンレール、ユニットインジェクタのシステムを理解する						
評価基準	中間点25点(小テスト2回)、平常点5点(授業態度)、期末試験(筆記35点、実技35点)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	2級、3級ジーゼルエンジン						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	噴射ポンプ燃料系統	概要、列型噴射ポンププランジャASSY(燃料圧送の仕組み)					
2回	噴射ポンプ燃料系統	列型噴射ポンププランジャASSY、分配型噴射ポンプ(燃料圧送の仕組み)					
3回	噴射ノズル、コモンレールシステム	噴射ノズル(特徴、種類)、コモンレール概要、特徴、燃料経路					
4回	コモンレールシステム	サブライポンプ、制御バルブ、コモンレール、フローダンパ、プレッシャリミッタ、レール圧センサ					
5回	コモンレールシステム	インジェクタ、センサ(エアフロ、ブースト圧、水温、クランク角、カム角、アクセルポジション)					
6回	コモンレールシステム	噴射量制御、噴射圧力制御、噴射時期制御、噴射率制御、気筒毎噴射量制御、補正值登録					
7回	ユニットインジェクタ	概要、特徴、燃料経路、構成部品					
8回	ジーゼルエンジン分解	エンジン台からエンジン取外し、エンジン分解					
9回	ジーゼルエンジン組立	各部洗浄、エンジン組立					
10回	ジーゼルエンジン組立・始動	エンジン組立、エンジン台に取付け、エンジン始動					
11回							
12回							
13回							
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考	噴射ポンプ終了後、1回目小テスト コモンレール、ユニットインジェクタ終了後、2回目小テスト						

科目名	エンジン4	学年	2	学期	1	担当教員名	北川 佳宏
実施日	月～木曜日	実施時間	1限～4限				
授業の概要	ガソリン・LPGを燃料とするエンジンの構造と制御を学びます。						
授業の方法	エンジンおよびその他の部品を分解・組み付け、その他資料により、構造・作動を学ぶ。						
到達目標	ロータリエンジンの構造を理解し、内燃機関の全体的な制御を理解する。						
評価基準	期末試験(学科35点・実技35点)、中間点25点(小テスト)、平常点5点(授業態度、提出物)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	二級・三級ガソリンエンジン、						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	基本サイクルの復習	基本サイクルを復習してエンジンの構造と制御を復習する。					
2回	ロータリエンジンの基礎	ロータリエンジンの歴史とレシプロエンジンとの違いを学ぶ。					
3回	ロータリエンジンの構造	ロータリエンジンを分解し、構造を観察する。					
4回	慣性吸気装置の構造	慣性過給の仕組みを理解する。					
5回	ロータリエンジンの制御	ロータリエンジンの制御システムを学ぶ。ロータリエンジンを組み付ける。					
6回	過給装置の構造	ターボチャージャの構造と制御を学ぶ。					
7回	過給装置の構造2	スーパーチャージャの構造と制御を学ぶ。					
8回	小テスト	授業復習。ベンチエンジンOHの準備					
9回	潤滑・冷却装置(復習)	潤滑冷却装置の復習。レシプロエンジンOH開始。					
10回	電子制御式燃料噴射装置	電子制御式燃料噴射装置の復習。					
11回	エンジン振動と対策	エンジンの多気筒化とバランスシャフトの仕組みを理解する。					
12回	排出ガス浄化装置	噴射方式や排出ガス浄化のシステムを復習する。					
13回	LPG・CNG車両の制御	LPG・CNG車両の燃料噴射制御を学ぶ。エンジンOH終了					
14回	LPG・CNG車両の安全装置	各部品の構造の役割と安全装置について学ぶ。					
15回	小テスト	授業復習。レポート作成。工具チェック。					
16回							
17回							
18回							
備考							

科目名	エンジン5	学年	2	学期	2	担当教員名	辻本 純孝
実施日	月～木曜日	実施時間	4限		トータル18日間		
授業の概要	電子制御システムを理解し、エンジン故障診断の進め方を学ぶ						
授業の方法	電子制御基礎復習から電子制御内容を理解し、診断機などを使用した故障診断の進め方を練習する						
到達目標	不具合内容から、エンジン基本制御内容や車両情報を使い故障系統が予想でき診断を進められる						
評価基準	中間点25点(小テスト2回)、平常点5点(授業態度)、期末試験(筆記35点、実技35点)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	2級、3級ガソリンエンジン						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	電子制御基礎復習	システム概要、センサとアクチュエータ復習					
2回	電子制御基礎復習	システム概要、センサとアクチュエータ復習の続き					
3回	燃料噴射量制御	基本噴射時間と始動時噴射時間、燃料噴射補正制御					
4回	燃料噴射量制御	燃料噴射補正制御続き、フューエルカット、アイドル回転速度制御					
5回	点火時期制御	エンジン回転及び負荷による進角・遅角、点火時期補正制御					
6回	自己診断機能	OBDの概要、外部診断機能及び使用方法					
7回	エンジン故障診断	整備書の使い方、故障診断の進め方、実習車両6台同一内容の故障で練習					
8回	エンジン故障診断	練習の続き、各車別々の故障で故障診断、1回目～5回目までの内容で小テスト1					
9回	エンジン故障診断	各班ローテーションで故障診断					
10回	エンジン故障診断	各班ローテーションで故障診断					
11回	エンジン故障診断	各班ローテーションで故障診断					
12回	エンジン故障診断	各班ローテーションで故障診断					
13回	エンジン故障診断	各班ローテーションで故障診断					
14回	エンジン故障診断	各班ローテーションで故障診断					
15回	エンジン故障診断	各班ローテーションで故障診断					
16回	エンジン故障診断	各班ローテーションで故障診断					
17回	エンジン故障診断	各班ローテーションで故障診断					
18回	エンジン故障診断	各班ローテーションで故障診断、レポート作成、小テスト2回目					
備考							

令和2年度

自動車整備工学科

科目名	シャシ 1	学年	1	学期	1	担当教員名	岩田 匡史
実施日	火～金曜日	実施時間	1～4 限目				
授業の概要	車 の基本 性能 、動力 伝達 装置の構造 ・ 作動を理解する						
授業の方法	教科書 ・ 資料の内容についての説明 を 板書し、修理書 を見て作業を 進める						
到達 目標	2 級 自動車 整備士 資格 試験を 取得するための知識を 得る						
評価 基準	期末 試験70点、 中間 試験 25点、平常点 5点（平常点は授業 態度・レポート提出）						
評価 方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。（1は欠点）						
使用 教科書	2 級・ 3 級シャシ、基礎 自動車 整備 作業 教科書、他 資料・修理書						
授業 計画							
回 数	項 目		内 容				
1 回	シャシ総論		車 の基本 性能 、車 の 構成を 理解 する				
2 回	シャシ総論		安全 装置（パッシブセーフティ、アクティブセーフティ）、ノギス使用 方法を 理解する				
3 回	クラッチの構造 作動		安全 装置、クラッチの概要・ 構成 部品（ペダル、マスタシリンダ）を理解する				
4 回	クラッチの構造 作動		構成 部品（レリーズシリンダ・ ケーブル・ フォーク、オイル）を理解する				
5 回	クラッチの構造 作動		構成部品（レリーズベアリング、クラッチカバー、クラッチディスク）を理解する				
6 回	クラッチの構造 作動		故障 診断、すべり点検、ギヤ比・ 回転数 計算 を 理解する				
7 回	マニュアルトランスミッションの構造作動		概要、単位 を 理解する、修理書・分解 要領 を 理解する				
8 回	マニュアルトランスミッションの構造作動		安全 装置 を 理解する、変速比 計算 を 理解する、小テスト				
9 回	マニュアルトランスミッションの構造作動		動力 伝達 経路、シンクロ機構 を 理解する				
10 回	マニュアルトランスミッションの構造作動		故障 診断、変速比・ 回転・トルク計算 を 理解する				
11 回	デファレンシャルの構造 作動		概要、修理書 ・ 分解 要領 を 理解する				
12 回	デファレンシャルの構造 作動		リングギヤバックラッシュ・プレロード調整、ダイヤルゲージ使用 方法を 理解する				
13 回	デファレンシャルの構造 作動		リングギヤバックラッシュ・プレロード 調整、歯あたり 点検 を 理解する、小テスト				
14 回	デファレンシャルの構造 作動		インドラムブレーキ組付け 調整 方法、ベアリングの構造・ 種類 を 理解する				
備考							
測定 工具の取扱い、読みを覚える							
構造 作動を理解して故障 個所を 推測・ 特定できる							
計算 問題ができる							

科目名	シャシ 2	学年	1	学期	2	担当教員名	岩田 匡史
実施日	火～金曜日	実施時間	1～4 限目				
授業の概要	車の動力 伝達 装置、アクスル・サスペンション、ステアリングの構造・作動を 理解する						
授業の方法	教科書・資料の内容についての説明を板書し、修理書を見て作業を 進める						
到達 目標	2 級 自動車 整備士 資格 試験を 取得するための知識を 得る						
評価 基準	期末 試験70点、中間 試験25点、平常点 5点（平常点は授業 態度・レポート提出）						
評価 方法	90点 以上を 5、76点 以上を 4、56点 以上を 3、50点以上を 2 とし、50点未満は 1 とする。（1 は欠点）						
使用 教科書	2 級・3 級シャシ教科書、他 資料・修理書						
授 業 計 画							
回 数	項 目		内 容				
1	プロペラ・ドライブシャフトの構造		プロペラ・ドライブシャフト・ジョイントの構造、ベアリングの構造・種類を 理解する				
2	アクスル・サスペンションの構造作動		ギヤの種類、車軸 懸架・独立 懸架、ばね下 重量を 理解する				
3	アクスル・サスペンションの構造作動		車軸 懸架・独立 懸架の特徴、全浮動・半浮動 構造を 理解する				
4	アクスル・サスペンションの構造作動		ストラット単体 分解 組立・作業 要領、シャシスプリング特徴を 理解する				
5	アクスル・サスペンションの構造作動		ショックアブソーバ構造 作動、ボディー振動 揺動を 理解する				
6	アクスル・サスペンションの構造作動		ロアーボールジョイント構造 点検 要領を 理解する				
7	ステアリングの構造 作動		ボールナット型・ラックピニオン型ギヤボックスの構造 作動を 理解する				
8	ステアリングの構造 作動		ボールナット型ギヤボックス分解 組立 要領を 理解する				
9	ステアリングの構造 作動		マニュアルステアリング故障 探求を 理解する				
10	ステアリングの構造 作動		油圧式P/Sの種類、構造を 理解する				
11	ステアリングの構造 作動		ペーンポンプ型 構造 作動を 理解する				
12	ステアリングの構造 作動		アクセラ Fストラット脱着を 理解する				
13	ステアリングの構造 作動		油圧式P/Sエア抜き・油圧 試験 要領を 理解する				
14	ステアリングの構造 作動		アライメント（トー、キャンバ、サイドスリップ）を理解する				
15	ステアリングの構造 作動		油圧式ラックピニオン分解 組立 要領を 理解する				
16	ステアリングの構造 作動		インテグラル型構造 作動を 理解する				
17	ステアリングの構造 作動		コーナールングフォース、アンダ・オーバステアを理解する				
18	ステアリングの構造 作動		インテグラル型 分解 組立 要領を 理解する				
19	ステアリングの構造 作動		トルクセンサ構造 作動を 理解する				
20	ステアリングの構造 作動		電動式P/S駆動 電流 測定				
備考	測定 工具、作業 工具の取扱い、読みを覚える						
	構造 作動を 理解して故障 個所を推測・ 特定できる						

令和2年度 自動車整備工学科

科目名	シャン3	学年	1	学期	3	担当教員名	甲斐 英史
実施日	火～金	実施時間	1～4限(10日間)				
授業の概要	タイヤ及びホイール、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデーの構造・機能、整備について理解させる。						
授業の方法	タイヤ及びホイールは2学期に実施済、ホイール・アライメント及びブレーキ装置は教材車を使用して分解・組立、計測等を実施して修得させる。ボデー及びフレームは寄贈のトラックを活用して理解させる。						
到達目標	ホイール・アライメントの測定要領を修得させる。ブレーキ装置の各部品の名称、作動を修得させる。また、実習車のFディスク・ブレーキの分解・組立てが一人で説明を交えて整備ができるようする。						
評価基準	期末筆記試験35点、期末実技試験35点、平常点5点(平常点は授業態度)、小テスト3回実施(25点)						
評価	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	3級自動車シャン・2級自動車シャン						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	ホイール・アライメントの構造・機能	概要、前後輪相互の関係、キャンバ(キャンバ・スラスト)、キャスタ(キャスタ・トレール)、キングピン傾角(キングピン・オフセット)					
2回	ホイール・アライメントの構造・機能	セット・バック角及びスラスト角、トー及び不等長タイロッド、ハンドルの左右ホルの切れ角、タイヤの異常摩耗とその原因					
3回	実習(ホイールアライメントの測定)及び小テスト	教材車を使用したホイールの振れ点検及びトーイン、キャンバ、キャスタ、キングピン傾角の測定、第2回小テスト(ホイール・アライメント)					
4回	実習(ドラム式ブレーキ装置)	概要、ドラム式ブレーキ本体の種類と特徴、ドラム式ブレーキの分解・組立て					
5回	実習(Fディスク式ブレーキ装置)	ディスクブレーキ本体の種類と作動、Fディスク式ブレーキの分解組立て					
6回	実習(Rディスク式ブレーキ装置)	ブレーキフルード及び制動時における不具合現象・Rディスクブレーキ及びパーキングの分解・組立て・調整、					
7回	実習(マスタ・シリンダ)	マスタ・シリンダ構造・機能・作動、マスタ・シリンダの分解組立て					
8回	実習(真空制動倍力装置マスタ・バック)	真空制動倍力装置の構成部品及び作動 マスタ・バックの分解組立て					
9回	実習(マスタ・バック及びFディスクブレーキ)・安全装置	マスタバックの点検要領、実車によるFディスクブレーキの分解組立、安全装置(Pバルブ、LSPV、ABS)の作動					
10回	フレーム及びボデー・小テスト	ボデーの構造・機能、用語の定義、第3回小テスト(ブレーキ装置・フレーム及びボデー)及びレポートの作成					
備考							

令和2年度 自動車整備工 学科

科目名	シャシ4	学年	2	学期	2	担当教員名	西川
実施日	月～木曜日	実施時間	1限～4限		17日間		
授業の概要	A/T、CVT、ABS、エアサス等乗用車からトラック、バスまで幅広く知識、技能を習得する。						
授業の方法	構造、作動を板書、映像、実物などで説明し、単体部品、実車を使用して作業をする。						
到達目標	実践の自動車整備作業に活用出来る知識、技能を習得する。						
評価基準	期末試験70点(学科35点、実技35点)・中間点25点(小テスト)・平常点5点(授業態度、レポート)。						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	3級シャシ、2級シャシ。						
授業計画							
回 数	項 目		内 容				
1回	動力伝達装置 (1)		1年次学習分復習及び自動車の性能について				
2回	動力伝達装置 (2)		A/T、トルクコンバータについて				
3回	動力伝達装置 (3)		A/T、プラネタリギヤユニットの作動、変速比について				
4回	動力伝達装置 (4)		A/T、各レンジの駆動伝達経路及び変速線図の見方について				
5回	動力伝達装置 (5)		A/T、安全装置及び実車を使用して各テスト				
6回	動力伝達装置 (6)		A/T、CVTについて				
7回	動力伝達装置 (7)		大型D/F分解、組立、測定及びLSDについて				
8回	動力伝達装置 (8)		インターアクスルD/Fについて、中間試験①実施、解答、解説				
9回	ブレーキ装置 (1)		油圧式ブレーキについて				
10回	ブレーキ装置 (2)		ABSについて				
11回	ブレーキ装置 (3)		エアー油圧式ブレーキについて				
12回	ブレーキ装置 (4)		エアーブレーキ、EXブレーキ、リターダについて				
13回	ブレーキ装置 (5)		圧縮空気(エアー)回路を理解し、エアコンプレッサ分解、組立				
14回	アクスル、サスペンション(1)		アクスル、サスペンションの構造、機能、ボディの振動、揺動について				
15回	アクスル、サスペンション(2)		エアサス(機械式、電子制御式)について				
16回	ステアリング装置		ステアリング機構復習、4WS,電子制御P/Sについて				
17回	最終日、まとめ		総復習、中間テスト②実施、解答解説、レポートまとめ提出、工具チェック、				
備考	・乗用車～大型トラック、バスについて学習し、2級ジーゼル自動車の国家試験に対応出来る様にする。 ・入社後の実践作業に活用することが出来る能力を育てる。 ・作業については、安全作業を心掛け安全第一に授業を進めます。 ・班毎(3～4名)に作業をするのでコミュニケーションを取るように心掛けて下さい。						

科目名	電気 1	学年	1	学期	1	担当教員名	二瓶 英康
実施日	火～金曜日	実施 時間	1～4 時限		15 日間		
授業の概要	自動車に使われている電装品の基礎的内容, 整備の学習を行います。						
授業の方法	構造, 作動, 役割を板書, 教科書, 映像, 実物などを用いて確認し, 単体部品を使用して作業します。						
到達目標	電気の基礎を理解し, サーキットテストの使い方を習得します。						
評価基準	期末試験 70 点(学科 35 点, 実技 35 点)・中間点 25 点(小テスト)・平常点 5 点(授業態度, レポート)						
評 価	90 点以上を 5, 76 点以上を 4, 56 点以上を 3, 50 点以上を 2 とし, 50 点未満は 1 とする。(1 は欠点)						
使用教科書	3 級, 2 級ガソリン自動車, 3 級ジーゼル自動車, 電装品構造						
授業計画							
回 数	項 目	内 容					
1 回	電気の基礎(1)	自動車の電装品(基礎), 電流, 電圧, 抵抗, 直列回路, 並列回路とは?					
2 回	電気の基礎(2)	電気用図記号, 電力, 直流, 交流とは? オームの法則(基礎)					
3 回	電気の基礎(3)	電力, 起電力, 逆起電力とは? オームの法則(応用)					
4 回	磁気の基礎	磁気(基礎), コイル, 電磁力, 右ねじの法則, 右手親指の法則					
5 回	半導体の基礎	半導体(基礎), オームの法則, 合成抵抗, W(ワット)(応用)					
6 回	計測(1)	サーキットテスト作成, 測定法, 電流, 電圧, 抵抗の簡易点検					
7 回	計測(2)	測定用ボードを使用しての電流, 電圧, 抵抗の測定(基礎)					
8 回	計測(3)	測定用ボードを使用しての電流, 電圧, 抵抗の測定(応用)					
9 回	バッテリー(1)	バッテリーの構造(基礎), 充放電, 容量, 形式, 充電の種類					
10 回	バッテリー(2)	バッテリーの構造, 起電力, 容量, 比重					
11 回	バッテリー(3)	バッテリーの点検, 整備, バッテリー復習					
12 回	スタータ(1)	スタータの構造(基礎), 名称, 役割, 出力特性					
13 回	スタータ(2)	スタータの構造, 名称, 作動, プラネタリ・ギヤの作動					
14 回	スタータ(3)	スタータの点検, 整備(分解, 作動点検, 吸引, 保持, 戻り), スタータ復習					
15 回	最終日, まとめ	工具チェック, レポートの作成と提出, 中間テスト, 総復習					
備考	授業の理解度によって内容は随時変更する可能性があります。 平常点については, 最終日に提出するレポート, 授業態度(特に居眠り, 注意されても私語を止めない等は減点とします。)によって決定します。						

科目名	電気2	学年	1	学期	3	担当教員名	北川 佳宏
実施日	火～金曜日	実施時間	1限～4限				
授業の概要	自動車の充電装置と点火装置を学びます。						
授業の方法	オルタネータ、ディストリビュータなどの部品を分解・組み付け、その他資料により、構造・作動を学ぶ。						
到達目標	充電装置、点火装置の構造を理解し、正しい制御を理解する。						
評価基準	期末試験(学科35点・実技35点)、中間点25点(小テスト)、平常点5点(授業態度、提出物)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	電装品構造、二級・三級ガソリンエンジン、二級ジーゼルエンジン						
授業計画							
回 数	項 目	内 容					
1回	電気の基礎の復習	電気の基礎を復習(1学期授業の復習。サーキットテストの使用)					
2回	自動車の充電装置(1)	発電の仕組みを理解する(磁界の変化に対してコイルが発電する仕組み)					
3回	自動車の充電装置(2)	オルタネータの構造を理解する。整流回路。					
4回	自動車の充電装置(3)	オルタネータの構造を理解する。電圧制御回路。					
5回	自動車の充電装置(4)	充電装置復習。バッテリーの充放電復習					
6回	自動車の点火装置(1)	混合気の燃焼(シリンダ内圧力の変化と点火時期の関係)					
7回	自動車の点火装置(1)	点火源となる放電のための高電圧を作る仕組み。(点火コイルなど)					
8回	自動車の点火装置(1)	高電圧を送電、燃焼室内で放電する仕組み。(点火プラグなど)					
9回	自動車の点火装置(1)	ジーゼルエンジンの点火(予熱装置)。点火装置の復習。					
10回	小テスト	授業復習。レポート作成。工具チェック。					
11回							
12回							
13回							
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考	電気の授業は難しいと思う人が多いです。しかし、自動車の制御に電気は欠かすことが出来ません。電気の基礎を復習。電流の磁気作用を理解し、技術は基礎を利用した物であることを理解してください。基礎をしっかりと理解すると、これからの授業も、新しい技術も理解していくことができます。						

科目名	電気3	学年	2	学期	1	担当教員名	辻本 純孝
実施日	月～木曜日	実施時間	4限		トータル15日間		
授業の概要	回路図の読み方を理解し、故障内容から診断の進め方を学ぶ						
授業の方法	部品構成と回路を理解し、その内容に沿った故障診断実習を行う						
到達目標	配線図からシステムを理解し故障診断(シャシ)のプロセスを確立させる						
評価基準	中間点25点(小テスト2回)、平常点5点(授業態度)、期末試験(筆記35点、実技35点)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	2級、3級自動車シャシ、電装構造						
授業計画							
回 数	項 目		内 容				
1回	灯火装置1		ヘッドランプの種類とバルブの種類を学ぶ				
2回	灯火装置2		バックアップランプ、テールランプ、ストップランプ、クリアランスランプ、ターンランプ				
3回	警報機(ホーン)、ワイパ		構成部品と作動を学ぶ				
4回	警報装置		断線検出回路、燃料残量警告灯、ブレーキ液残量警告灯、油圧警告灯、ブザー				
5回	電線、リレー、フューズ		小テスト(1回目)、電線の太さ配線色、リレーとフューズの必要性を学ぶ				
6回	故障診断(シャシ)1		電圧、電流、抵抗測定方法を復習する、断線、短絡の確定方法を学ぶ				
7回	故障診断(シャシ)2		回路図を見て予想電圧、不具合設定から考えられる故障個所の確定方法を学ぶ				
8回	故障診断(シャシ)3-1		Dr.Volt使用し回路図を説明及び予想電圧記入、実測定で予想電圧と比較				
9回	故障診断(シャシ)3-2		故障設定されたDr.Voltで実際に故障診断を行う				
10回	故障診断(シャシ)3-2		前回の続き				
11回	故障診断(シャシ)4-1		実習車両回路図の読み方を説明、実習車で故障診断練習問題を実施				
12回	故障診断(シャシ)4-2		各実習車別々の故障設定で、各班でローテーションしながら故障診断開始				
13回	故障診断(シャシ)4-2		各班ローテーションして故障診断継続				
14回	故障診断(シャシ)4-2		各班ローテーションして故障診断継続				
15回	故障診断(シャシ)4-2		各班ローテーションして故障診断継続、故障診断解説、小テスト(2回目)				
16回							
17回							
18回							
備考							

科目名	電気4	学年	2	学期	2	担当教員名	北川 佳宏
実施日	月～木曜日	実施時間	1限～4限				
授業の概要	エアコン・計器・ナビゲーション・エアバッグについて構造・作動を学びます。						
授業の方法	それぞれの単体部品の確認。車両で部品配置や作動を体感して理解を深める。						
到達目標	各装置の構造と作動を理解する。						
評価基準	期末試験(学科35点・実技35点)、中間点25点(小テスト)、平常点5点(授業態度、提出物)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	電装品構造・二級自動車シャシ						
授業計画							
回 数	項 目	内 容					
1回	多重通信システム	多重通信システムの必要性、作動を理解する					
2回	空調装置	空調装置の役割と作動					
3回	ヒータコントロール	ヒーターの構造、ブロワのコントロールを理解する					
4回	冷凍サイクル	冷凍サイクルの基本を理解する。					
5回	部品構造	冷凍サイクルの各部品の構造・作動を理解する。					
6回	部品構造・配置	車両の部品配置、圧力確認。					
7回	オートエアコン	オートエアコンの作動を確認する。					
8回	構造・作動	各装置、風量・吹き出し口・温度のコントロールを理解する。					
9回	小テスト	授業の復習、小テスト、小テスト回答。					
10回	計器	計器の役割を理解する。					
11回	構造・作動	メーターを動かす仕組みを理解する。					
12回	ナビゲーション	ナビゲーションシステムの基本を理解する。					
13回	構造・作動	装置の構造、作動を理解する					
14回	エアバッグ	安全装置の役割を理解する。					
15回	構造・配置	各部品の配置、構造、作動を理解する。					
16回	小テスト	授業の復習、小テスト、小テスト回答。					
17回	授業まとめ・レポート提出	授業復習。レポート作成。工具チェック。					
18回							
備考							

令和2年度 自動車整備工学科

科目名	二輪	学年	1	学期	2	担当教員名	川端 一史
実施日	火・水・木・金	実施時間	1限 ～ 4限				
授業の概要	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置						
授業の方法	教科書、参考資料の板書及び説明、実習部品、映像を使用した説明等						
到達目標	二輪自動車特有の構造を理解してもらう						
評価基準	小テスト25点						
評価方法	4回目授業最終日に小テスト実施						
使用教科書	三級二輪自動車 二級二輪自動車						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	燃料装置(キャブレター)について	キャブレターの構造、作動について CV式、VM式キャブレターの分解組立					
2回	内燃機関(2サイクル)について	2サイクルエンジン構造、作動について DIO系エンジンの分解組立					
3回	動力伝達装置(湿式多板クラッチ	湿式多板クラッチの構造、作動について ゼファー750クラッチ分解組立					
4回	動力伝達装置(自動遠心クラッチ	ベルト式自動無段変速機構構造、作動について DIO無段変速機構分解組立					
5回							
6回							
7回							
8回							
9回							
10回							
11回							
12回							
13回							
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考							

令和2年度 自動車整備工学科

科目名	溶接・工作	学年	1	学期	2	担当教員名	甲斐 英史
実施日	火～金	実施時間	1～4限(16日間)				
授業の概要	アーク及びガス溶接について、使用する設備・器具の構造・管理・取り扱い基準・作業の安全を概ね修得させる。又、工作機械、工具の取扱を修得してしボルト・ナット及びバインダーを製作する。						
授業の方法	前段にアーク及びガス溶接の取り扱いを理解させ課題を完成させる。後段では工作機械及び工具の取り扱いを理解させ作品を完成させる。						
到達目標	ガス溶接及びアーク溶接の資格を取得させると共に工作機械及び工具を使用して技能を修得させる。						
評価基準	溶接中間筆記・実技試験40点、工作中間筆記・実技試験30点、平常点5点(平常点は授業態度)、二輪評価25点を合わせて100点満点とする。						
評価	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	アーク溶接作業の安全テキスト、ガス溶接・溶断作業の安全テキスト、基礎自動車整備作業テキスト						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	学科:アーク溶接等作業の安全	アーク溶接等に関する知識、アーク溶接装置に関する知識、アーク溶接の作業の方法に関する知識、関係法令を理解させる。					
2回	実習:溶接の方法	アークの発生法、ストリンガービードの置き方					
3回	実習:溶接の方法	ウィーピングビードの置き方、すみ肉溶接					
4回	中間試験及び課題	アーク溶接学科試験問題、課題提出、マグ溶接及びプラズマ切断作業					
5回	学科:ガス溶接・溶断等作業の安全	ガス溶接等を用いる可燃性ガス及び酸素の知識、ガス溶接等の装置の構造及び取り扱い、ガス溶接等の作業における危険性、関係法令					
6回	実習:溶接の方法	ボンベの移動法、圧力調整器の取付け方、ガス溶接の手順、炎の調整、溶接器(吹管またはトーチ)の動かし方					
7回	実習:溶接の方法	ビートの置き方、下向き前進突合せ溶接					
8回	中間試験及び課題	ガス溶接学科中間試験、課題提出、ガス溶断作業					
9回	工作機械、工具の取扱を理解する	ハンマ・ポンチ・たがね・タップ・ダイス他、各種工作機械の取り扱い					
10回	実習:課題作成	四角頭ボルト、ナットの作成					
11回	実習:課題作成	バインダーの作成					
12回	中間試験及び課題	基本工作学科中間試験、課題提出					
13回	シャシⅢ(タイヤ及びホイール)	3学期のシャシⅢ授業を時間の関係上で事前に授業する。					
14回	ホイール	ホイールの構造・機能(軽合金ホールの種類と特徴、ホイールの取り付け方式及び寸法(インセット)、リムの呼称					
15回	タイヤ	タイヤの構造・機能(タイヤの種類、タイヤの呼び、タイヤのたわみ、タイヤの走行音、タイヤの振動、タイヤの偏平率)					
16回	実習:小テスト	タイヤの脱着及び組み換え替え、ホイールバランスの測定、第1回小テストの実施					
備考	溶接テキストは授業前に配布する。 成績は中間試験及び課題評価とする。						

令和2年度 自動車整備工学科

科目名	法令・検査	学年	2	学期	1	担当教員名	甲斐 英史
実施日	月～木	実施時間	1～4限(15日間)				
授業の概要	道路運送車両法及び保安基準の知識を理解させると共に実習授業において法定点検・検査業務を実習授業を通じて習得させる。						
授業の方法	前段に道路運送車両法の座学を実施、後段で保安基準の理解及び実習を通じて定期点検整備及び整備記録簿の記載要領を修得させる。						
到達目標	法令知識を理解、習得し、法定点検及び検査に於ける定型作業を一人でできるようにする。						
評価基準	期末筆記試験35点、期末実技試験35点、平常点5点(平常点は授業態度)、小テスト2回実施(25点)						
評価	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	授業開始前に法令教本を配布する。						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	道路運送車両法の概要と要点	道路運送車両法の定義・自動車の種別を理解させる。					
2回	登録制度	登録の効力・登録の種類・登録番号標・臨時運行について理解させる。					
3回	自動車の点検制度	日常点検・定期点検の点検基準及び整備記録簿の記載要領を理解させる。					
4回	自動車の検査制度	自動車検査の種類、自動車検査証の有効期間、検査標章等を理解させる。					
5回	認証制度と指定制度	認証基準及び分解整備記録簿の記載、自動車検査員、保安基準適合証を理解させる					
6回	検査業務の保安基準	継続検査の保安基準(制動力判定基準・制動力の計算練習問題、騒音の測定、排出ガス)を理解させる。					
7回	検査業務の保安基準及び検査実習	継続検査の保安基準(スピードメータの誤差、前照灯の光軸・光度・下回りの点検)を理解させる。継続検査で必要な検査機器の取り扱いを説明後、保安基準の合否を判定させる。					
8回	検査業務(実習)・小テスト	一人で検査業務ができ、保安基準の合否が判定できるようにする。道路運送車両法の第1回小テストを実施して理解度を判定する。					
9回	保安基準(自動車の構造関係)定期点検整備要領	保安基準教本(用語の定義～最少回転半径まで)及び日常点検・12ヵ月定期点検整備の実施要領を実車を使用して展示説明する。					
10回	保安基準(原動機及びシャシ関係)点検整備実習1回目	保安基準教本(速度抑制装置～燃料装置まで)及び日常点検・12ヵ月定期点検整備実習					
11回	保安基準(車体関係)点検整備実習2回目	保安基準教本(車体～排出ガス規制まで)及び日常点検・12ヵ月定期点検整備実習					
12回	保安基準(公害防止関係)点検整備実習3回目	保安基準教本(走行用前照灯～車幅灯まで)及び日常点検・12ヵ月定期点検整備実習					
13回	保安基準(灯火関係)点検整備実習4回目	保安基準教本(側方灯～大型後部反射器まで)及び日常点検・12ヵ月定期点検整備実習					
14回	保安基準(灯火関係)点検整備実習5回目	保安基準教本(制動灯～方向指示器まで)及び日常点検・12ヵ月定期点検整備実習					
15回	保安基準(灯火関係)・小テスト	保安基準教本(警音器～緊急自動車まで)及び保安基準の第2回小テストを実施して理解度を確認する。法令の復習(年度別過去法令練習問題の実施)・レポート提出					
備考	・班長を指名して責任ある点検整備を実施させる。 ・日常点検及び定期点検は車種毎にローテーションして実施させる。 ・実習における定期点検整備記録簿の記載事項を毎回確認する。 ・レポート未提出者は平常点1とする。						

令和2年度 自動車整備工 学科

科目名	総合工学1(数学)	学年	1	学期	1	担当教員名	小野 俊一郎
実施日	月曜日	実施時間	2班 1限 1班 3限				
授業の概要	整備士に必要な計算能力を習得する。						
授業の方法	教科書にそったプリントを配布します。 毎時間、プリントを実施していきます。						
到達目標	整備士に必要な計算問題が解ける様にする。						
評価基準	中間試験12.5点、期末試験35点、平常点2.5点の合計50点。 但し、総合工学(工学一般)との合算で評価						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	自動車整備士の数学 及び 配布のプリント						
授業計画							
回 数	項 目		内 容				
1回	基礎学力確認テスト		基礎的な計算能力把握の為のテストを実施します。(成績には関係しません)				
2回	基礎学力確認テスト 解説		基礎学力確認テストの解き方の解説				
3回	中間試験(1回目)		基礎学力テストの内容で、習熟度を測る。(成績に反映されます。)				
4回	単位変換、速度の計算問題1		単位変換及び速度の求め方				
5回	単位変換、速度の計算問題2		単位変換及び速度の求め方				
6回	平均速度1		平均速度の求め方				
7回	平均速度2		平均速度の求め方				
8回	平均ピストンスピード		平均ピストンスピードの求め方				
9回	中間試験(2回目)		平均速度、平均ピストンスピードの求め方について出題。(成績に反映されます。)				
10回	加速度1		加速度・減速度の求め方				
11回	加速度2		加速度・減速度の求め方				
備考	授業の次の週の最初に確認テスト(小テスト)を実施します。 成績には反映されませんが、習熟度の低い学生は居残りで補習を受けなくてはなりません。 補習は月曜の4限目に実施します。						

※総合工学の授業は「数学」と「工学一般」に分かれています。

※授業、テストはそれぞれ別で行いますが、評価は両方の合計(平均)で行ないます。

令和2年度 自動車整備工 学科

科目名	総合工学2(数学)	学年	1	学期	2	担当教員名	小 野
実施日	月曜日	実施時間	1限 or 3限				
授業の概要	整備士に必要な計算能力を習得する。						
授業の方法	教科書にそったプリントを配布します。 毎時間、プリントを実施していきます。						
到達目標	整備士に必要な計算問題が解ける様にする。						
評価基準	中間試験12.5点、期末試験35点、平常点2.5点の合計50点。 但し、総合工学(工学一般)との合算で評価						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	自動車整備士の数学 及び 配布のプリント						
授業計画							
回 数	項 目		内 容				
1回	1学期 復習		速度や加速度等の問題。 1学期に習った内容の復習				
2回	速度計 誤差 & 誤差率 1		速度計の誤差、誤差率の求め方を習得する。				
3回	速度計 誤差 & 誤差率 2		速度計の誤差、誤差率の求め方を習得する。				
4回	仕事と仕事率 1		仕事、仕事率の求め方を習得する。				
5回	仕事と仕事率 2		仕事、仕事率の求め方を習得する。				
6回	圧力 1		圧力の求め方を習得する。				
7回	圧力 2		圧力の求め方を習得する。				
8回	圧力 3		圧力の求め方を習得する。				
9回	中間テスト/トルク 1		仕事 & 圧力の中間テスト トルクの求め方を習得する。				
10回	トルク 2		トルクの求め方を習得する。				
11回	トルク 3		トルクの求め方を習得する。				
12回	ギヤ比・トルク 1		ギヤの計算問題が出来る様になる。				
13回	ギヤ比・トルク 2		ギヤの計算問題が出来る様になる。				
備考	授業の次の週の最初に確認テスト(小テスト)を実施します。 成績には反映されませんが、習熟度の低い学生は居残りで補習を受けなくてはなりません。 補習は月曜の4限目に実施します。						

令和2年度 自動車整備工学科

科目名	総合工学3(数学)	学年	1	学期	3	担当教員名	小 野
実施日	月曜日	実施時間	1限 or 3限				
授業の概要	整備士に必要な計算能力を習得する。						
授業の方法	教科書にそったプリントを配布します。 毎時間、プリントを実施していきます。						
到達目標	整備士に必要な計算問題が解ける様にする。						
評価基準	期末試験35点、平常点 2.5点の合計37.5点。 但し、総合工学(工学一般)との合算で評価						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	自動車整備士の数学 及び 配布のプリント						
授業計画							
回 数	項 目	内 容					
1回	プリントNo23 プーリ	プーリの計算問題					
2回	プリントNo24 プラネタリギヤ	プーリの計算問題 確認テスト プラネタリギヤの計算問題					
3回	プリントNo25 トルク てこ	プラネタリギヤの計算問題 確認テスト トルク・てこの計算問題					
4回	プリントNo26 てこ 荷重計算	トルク・てこの計算問題 確認テスト てこ・荷重計算問題					
5回	プリントNo27 荷重計算2	てこ・荷重計算問題 確認テスト 荷重計算					
6回	プリントNo28 荷重計算3	てこ・荷重計算問題 確認テスト 荷重計算					
7回							
8回							
9回							
10回							
11回							
12回							
13回							
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考							

令和2年度 自動車整備工 学科

科目名	総合工学4	学年	2	学期	1	担当教員名	平城 公一郎
実施日	金曜日	実施時間	2・3時限目				
授業の概要	整備士に必要な計算問題 3級ガソリン、ジーゼル、シャシ問題						
授業の方法	課題プリントと解説						
到達目標	2級試験に出題される計算問題の習得、4輪ガソリン、ジーゼルエンジン、シャシの3級レベルの知識習得						
評価基準	授業態度10点 期末テスト90点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	自動車整備士の数学、3級自動車ガソリン、ジーゼル、シャシ						
授業計画							
回数	項目		内 容				
1回	荷重計算問題	3級過去問	荷重計算プリント		3級ガソリン過去問		
2回	荷重計算問題	3級過去問	荷重計算プリント		3級ジーゼル過去問		
3回	性能曲線問題	3級過去問	エンジン・走行性能曲線		3級シャシ過去問		
4回	性能曲線問題	3級過去問	復習 速度計算		3級ガソリン過去問		
5回	復習計算問題	3級過去問	復習 速度計算		3級ジーゼル過去問		
6回	復習計算問題	3級過去問	復習 キヤ比計算		3級シャシ過去問		
7回	復習計算問題	3級過去問	復習 合成抵抗		3級ガソリン過去問		
8回	復習計算問題	3級過去問	復習 仕事率		3級ジーゼル過去問		
9回	復習計算問題	3級過去問	復習 圧力		3級シャシ過去問		
10回							
11回							
12回							
13回							
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考							

令和2年度 自動車整備工 学科

科目名	総合工学5	学年	2	学期	2	担当教員名	平城 公一郎
実施日	金曜日	実施時間	2・3時限目				
授業の概要	整備士に必要な計算問題 2級ガソリン、ジーゼル問題						
授業の方法	課題プリントと解説						
到達目標	2級試験に出題される計算問題の習得、4輪ガソリン、ジーゼル、2級過去問題の習得						
評価基準	授業態度5点 期末テスト95点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	自動車整備士の数学、2級自動車ガソリン、ジーゼル、						
授業計画							
回数	項目	内容					
1回	2級計算問題、2級過去問題	荷重、圧力、合成抵抗、等、計算問題 2級ピストン問題、点火順序					
2回	2級計算問題、2級過去問題	仕事率、排気量、ギヤ比、等、計算問題 コンロッド、クランク、シリンダ、バルブ、燃焼室					
3回	2級計算問題、2級過去問題	荷重、圧力、合成抵抗、等、計算問題 工学一般、排ガス問題					
4回	2級計算問題、2級過去問題	仕事率、排気量、ギヤ比、等、計算問題 工学一般、冷却装置					
5回	2級計算問題、2級過去問題	荷重、圧力、合成抵抗、等、計算問題 サスペンション、タイヤ、ホイール					
6回	2級計算問題、2級過去問題	仕事率、排気量、ギヤ比、等、計算問題 2級ガソリン混合問題					
7回	2級計算問題、2級過去問題	荷重、圧力、合成抵抗、等、計算問題 2級ガソリン、シャシ問題					
8回	2級計算問題、2級過去問題	仕事率、排気量、ギヤ比、等、計算問題 2級ジーゼル混合問題					
9回	2級計算問題、2級過去問題	荷重、圧力、合成抵抗、等、計算問題 2級ガソリン、シャシ問題					
10回	2級計算問題、2級過去問題	仕事率、排気量、ギヤ比、等、計算問題 2級ジーゼル混合問題					
11回	2級計算問題、2級過去問題	荷重、圧力、合成抵抗、等、計算問題 2級ジーゼル混合問題					
12回	2級計算問題、2級過去問題	仕事率、排気量、ギヤ比、等、計算問題 2級ガソリン混合問題					
13回	2級計算問題、2級過去問題	荷重、圧力、合成抵抗、等、計算問題 2級ジーゼル混合問題					
14回	2級計算問題、2級過去問題	仕事率、排気量、ギヤ比、等、計算問題 2級ガソリン混合問題					
15回	2級計算問題、2級過去問題	荷重、圧力、合成抵抗、等、計算問題 2級ジーゼル混合問題					
16回							
17回							
18回							
備考							

令和2年度 自動車整備工学科

科目名	総合四輪1	学年	2	学期	1	担当教員名	小野 俊一郎
実施日	金曜日	実施時間	1班 1限 2班 2限				
授業の概要	2級の教科書に掲載されていないが、自動車に一般的に採用されている技術について知る。						
授業の方法	資料を配布し、内容についての説明を板書、写真、映像により説明します。						
到達目標	周りの人にそれらの技術について聞かれた時に答えられるようになる。						
評価基準	期末試験70点、課題(論文)25点、平常点5点(平常点は授業態度)						
評価	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	特にありません。こちらで用意して配布します。						
授業計画							
回数	項目		内 容				
1回	CO ₂ 排出量について		CO ₂ について、排出量について学びます。				
2回	可変バルブタイミング機構		可変バルブタイミング機構について学びます。				
3回	可変バルブタイミング機構		可変バルブタイミング機構について学びます。				
4回	可変バルブタイミング機構		可変バルブタイミング機構について学びます。				
5回	自動変速マニュアルミッション		非ATの2ペダル式トランスミッションについて学びます。				
6回	自動変速マニュアルミッション		非ATの2ペダル式トランスミッションについて学びます。				
7回	ハイブリッド車		各社、各種ハイブリッド車について学びます。				
8回	ハイブリッド車		各社、各種ハイブリッド車について学びます。				
9回	ハイブリッド車		各社、各種ハイブリッド車について学びます。				
備考	HV車については、2級の教科書では習わないし、国家試験にも出ません。しかし、現在市販されている車の半数はHV車です。 その他、普通に採用されている技術が沢山あります。 入社後に恥をかくことが無い様、しっかり勉強してください。 配布した資料を綴るファイルを用意して下さい。						

令和2年度 自動車整備工学科

科目名	総合四輪2	学年	2	学期	2	担当教員名	小野 俊一郎
実施日	金曜日	実施時間	第1限				
授業の概要	2級の教科書に掲載されていないが、自動車に一般的に採用されている技術について知る。						
授業の方法	資料を配布し、内容についての説明を板書、写真、映像により説明します。						
到達目標	周りの人にそれらの技術について聞かれた時に答えられるようになる。						
評価基準	期末試験70点、課題(論文)25点、平常点5点(平常点は授業態度)						
評価	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	特にありません。こちらで用意して配布します。						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	燃料電池車について(1)	燃料電池の基本を知る。トヨタ ミライ、ホンダクラリティについて知る。					
2回	燃料電池車について(2)	スズキ バグマン、水素燃料車について知る					
3回	アイドルリングストップ機構(1)	アイドルリングストップ機構について知る。 種類を知る。					
4回	アイドルリングストップ機構(2)	各社の概要を知る。					
5回	直噴ガソリンエンジン(1)	直噴噴射式ガソリンエンジンの構造・作動を知る。					
6回	直噴ガソリンエンジン(2)	各社の概要を知る。					
7回	スタビリティコントロール(1)	スタビリティコントロール(横滑り防止装置)について知る。					
8回	運転支援システム(1)	運転支援装置の構造・作動を知る。					
9回	運転支援システム(2)	各社の概要を知る。					
10回	エアロダイナミクス(1)	エアロダイナミクスとは何かを知る。 なぜ今重要視されているのか知る。					
11回	エアロダイナミクス(2)	各社の概要を知る。					
12回	エアロダイナミクス(3)	各社の概要を知る。					
13回	エアロダイナミクス(4)	各社の概要を知る。					
備考	HV車については、2級の教科書では習わないし、国家試験にも出ません。しかし、現在市販されている車の半数はHV車です。 その他、普通に採用されている技術が沢山あります。総合四輪Ⅱでは特に運転支援装置。現在多くの車両に標準化され、国のサポカー制度も始まっています。入社後に恥をかくことが無い様、しっかり勉強してください。 配布した資料を綴るファイルを用意して下さい。						

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	基礎自動車工学	学年	1	学期	1	担当教員名	鴨谷 健二
実施日	火・水・木・金	実施時間	1限 ～ 4限				
授業の概要	基礎自動車工学、基礎自動車整備作業、自動車整備の導入教育、バンダー製作						
授業の方法	教科書をベースに板書し、小テストを行う。作業工具を実際に手に取ってもらい作業イメージをつけてもらう。						
到達目標	作業工具名称の100%把握、基礎工学の理解						
評価基準	単元試験(学科試験45点・実習試験45点)、バンダー製作出来栄え点5点、平常点5点(授業態度)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	基礎自動車工学、基礎自動車整備作業						
授業計画							
回 数	項 目	内 容					
1回	自動車の概要	自動車の定義 自動車の分類 自動車の歴史についての理解。					
2回	自動車の機械要素	ねじ スプリング ベアリング ギヤ の理解。					
3回	整備の基礎知識	作業目的、安全作業の心得、発生する公害への対応への理解。					
4回	基礎整備作業 基本作業	作業工具の種類、構造の理解、取り扱う上での方法、注意事項。					
5回	基礎整備作業 基本作業	作業工具の種類、構造の理解、取り扱う上での方法、注意事項。					
6回	バンダー製作	作業工具の取り扱いを理解した上での実践使用。製作作業。					
7回	バンダー製作	作業工具の取り扱いを理解した上での実践使用。仕上げ作業。					
8回	自動車の構造、材料	自動車の構造の理解、自動車に用いられる材料等の理解。					
9回	燃料、及び潤滑剤・基礎的な原理、法則	燃料及び潤滑剤の種類理解。基礎原理、法則の理解、公式の説明。					
10回	基礎自動車工学 総復習	小テスト等を実施。理解を深める。					
11回	基礎自動車工学 単元試験						
12回							
13回							
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考	基礎自動車工学、基礎自動車整備作業の教科書を使った教育。 今後の整備技術、知識を養う為の基礎的な導入部分になります。 全ての基本がここにあり、迷った時に原点に戻る事が出来るベース部分と言っても過言ではありません。 この基礎をしっかりと覚えてください。						

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	エンジン1(内燃機関)	学年	1	学期	1	担当教員名	川端 一史
実施日	火・水・木	実施時間	1限 ～ 4限				
授業の概要	エンジン本体 内燃機関						
授業の方法	教科書、参考資料の板書及び説明、実習車両、映像、動画を使用した説明等						
到達目標	エンジン内部の構造を知る。名称・役割が言えるようになる。						
評価基準	学科試験35点 実技試験30点 中間試験25点 平常点10点(授業態度5点、レポート5点)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	三級二輪自動車・三級ガソリン自動車						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	内燃機関の分類	内燃機関の作動方式 燃焼方式 着火方式 冷却方式等を知る					
2回	内燃機関 4サイクルエンジン	ガソリンエンジン 4サイクルエンジンの作動を知る					
3回	内燃機関 バルブタイミング	バルブタイミングダイアグラム 熱効率 ノッキング					
4回	内燃機関 2サイクルエンジン	ガソリンエンジン 2サイクルエンジンの作動を知る					
5回	内燃機関 シリンダ配列による種	直列型・V型・水平対向型等エンジンの種類を知る。(実)スーパーカブのエンジン					
6回	内燃機関 燃焼室内構造	シリンダヘッド・燃焼室・シリンダの機能・構造を知る。(実)部品現物で名称機能					
7回	内燃機関 燃焼室内構造	シリンダヘッド・燃焼室・シリンダの機能・構造を知る。(実)内燃機内部品測定・					
8回	内燃機関 燃焼室内構造	ピストン・ピストンリング・クランクシャフト等の機能・構造を知る。(実)カブエン					
9回	内燃機関 直列エンジン構造	(実)ゼファ750エンジンを使用してのバルブタイミングの確認・点検・調整					
10回	内燃機関 直列エンジン構造	(実)ゼファ750エンジン 腰上分解 各部品役割確認					
11回	内燃機関 直列エンジン構造	(実)ゼファ750エンジン バルブ当たり幅点検・擦り合わせ方法を知る。エン					
12回	内燃機関 2サイクルエンジン構	2サイクルエンジンの構造を知る。(実)DIOエンジン分解・組立 エンジン単					
13回	内燃機関 中間試験	エンジン单元(内燃機関) 中間試験					
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考							

令和2年 二輪整備工学科

科目名	エンジン2	学年	2	学期	2	担当教員名	川端 一史
実施日	月・火・水・金	実施時間	1限 ～ 4限				
授業の概要	エンジンの分解組み立てを行うことで、構造を理解する。						
授業の方法	エンジンの分解組み立て作業と同時に、エンジン各部の測定を行う。						
到達目標	エンジンの構成部品を理解し、各測定器の使用方法を理解する。						
評価基準	学科試験45点、実技27点、中間点18点、平常点10点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	3級二輪、2級二輪						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	エンジン整備	走行会車両・CB400・ゼファー750でエンジンの始動確認を行う。(法令の復習)					
2回	エンジン整備	走行会車両・CB400・ゼファー750でエンジンの始動確認を行う。(法令の復習)					
3回	2stエンジン分解・組立①	DIO50、エンジン分解組立・各部測定 二級二輪 ガソリンエンジン 概要					
4回	2stエンジン分解・組立②	DIO50、エンジン分解組立・各部測定 二級二輪 ガソリンエンジン総論					
5回	2stエンジン分解・組立③	DIO50、エンジン分解組立・各部測定 二級二輪 ガソリンエンジン エンジン					
6回	2stエンジン分解・組立④	DIO50、エンジン分解組立・各部測定 二級二輪 ガソリンエンジン バランサ機構					
7回	2stエンジン分解・組立⑤	DIO50、エンジン分解組立・各部測定 二級二輪 ガソリンエンジン 潤滑装置					
8回	2stエンジン分解・組立⑥	DIO50、エンジン分解組立・各部測定 二級二輪 ガソリンエンジン 冷却装置					
9回	2stエンジン分解・組立⑦	DIO50、エンジン分解組立・各部測定 二級二輪 ガソリンエンジン 吸排気装置					
10回	2stエンジン分解・組立⑧	DIO50、エンジン分解組立・各部測定 二級二輪 ガソリンエンジン 電子制御					
11回	4stエンジン分解・組立①	NINJA400、エンジン分解組立・各部測定 二級ガソリン エンジン本体					
12回	4stエンジン分解・組立②	NINJA400、エンジン分解組立・各部測定 二級ガソリン エンジン本体					
13回	4stエンジン分解・組立③	NINJA400、エンジン分解組立・各部測定 二級ガソリン 潤滑装置					
14回	4stエンジン分解・組立④	NINJA400、エンジン分解組立・各部測定 二級ガソリン 冷却装置					
15回	4stエンジン分解・組立⑤	NINJA400、エンジン分解組立・各部測定 二級ガソリン 吸排気装置					
16回	4stエンジン分解・組立⑥	NINJA400、エンジン分解組立・各部測定 二級ガソリン 吸排気装置(過給機)					
17回	4stエンジン分解・組立⑦	NINJA400、エンジン分解組立・各部測定 二級ガソリン 電子制御装置					
18回	4stエンジン分解・組立⑧	NINJA400、エンジン分解組立・各部測定 二級ガソリン 電子制御装置					
19回	4stエンジン分解・組立⑨	NINJA400、エンジン分解組立・各部測定 二級ガソリン 電子制御装置					
20回	4stエンジン分解・組立⑩	NINJA400、エンジン分解組立・各部測定 二級ガソリン 燃焼及び排気ガス対策					
21回	4stエンジン分解・組立⑪	NINJA400、エンジン分解組立・各部測定 二級ガソリン 総まとめ					
22回	4stエンジン分解・組立⑫	NINJA400、エンジン分解組立・各部測定 二級ガソリン 総まとめ					
23回	4連キャブレータ分解組立	4連キャブレータの分解、清掃					
24回	4連キャブレータ分解組立	4連キャブレータの分解、清掃、組立、同調調整					
25回	4連キャブレータ分解組立	4連キャブレータの同調調整					
26回	エンジン単元復習	エンジン単元の総復習					
備考	就職後にエンジンの分解組立作業を行うことは少ないですが、エンジンの構造を理解するためには分解作業を行いながら各部の確認を行う事が近道です。非常に複雑で難しいですが、しっかりと理解出来るように積極的に作業に取り組みましょう。						

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	シャシ(動力伝達機構)	学年	1	学期	1	担当教員名	川端 一史
実施日	火・水・木・金	実施時間	1限 ～ 4限				
授業の概要	二輪、四輪自動車における動力伝達装置の構造について						
授業の方法	教科書、参考資料の板書及び説明、実習車両、映像、動画を使用した説明等						
到達目標	構造機能を理解し、正確な分解組立が出来るようになる事						
評価基準	学科試験45点 実技試験45点 平常点10点(授業態度7点、レポート3点)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	三級二輪自動車 二級二輪自動車 三級自動車シャシ						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	1学期エンジン単元見直し	単元試験の復習 キャブレータの復習					
2回	1学期エンジン単元見直し	2ストロークエンジン復習 4ストロークエンジン復習					
3回	オートバイのクラッチ	三級二輪P59-P62 ゼファエンジン クラッチ分解(プル式)					
4回	オートバイのクラッチ操作機構	三級二輪P63-P65 VT250エンジン クラッチ分解(プッシュ式)					
5回	湿式多板自動遠心クラッチ構造	スーパーカブの自動遠心クラッチについて					
6回	湿式多板自動遠心クラッチ構造	スーパーカブの自動遠心クラッチについて					
7回	乾式シュー式自動遠心クラッチ	スクータの自動遠心クラッチについて					
8回	ベルト式無段変速機	スクータのベルト式自動無段変速装置について					
9回	オートバイのトランスミッション	三級二輪P66-P69 スーパーカブトランスミッション分解					
10回	オートバイのトランスミッション	三級二輪P70-P73 スーパーカブトランスミッション組立					
11回	オートバイのトランスミッション	ゼファエンジン トランスミッション分解					
12回	オートバイのトランスミッション	ゼファエンジン トランスミッション組立					
13回	二輪駆動装置の種類	ドライブシャフト分解組立 ドライブチェーン切断方法等					
14回	四輪動力伝達装置	プロペラシャフト ドライブシャフト デファレンシャルについて					
15回	シャシ1総復習						
16回	シャシ1単元試験						
備考							

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	シャシ2	学年	1	学期	1	担当教員名	川端 一史
実施日	火・水・木・金	実施時間	1限 ～ 4限				
授業の概要	二輪、四輪自動車のアクスル及びサスペンション、ステアリング装置、ブレーキ装置、フレーム						
授業の方法	教科書、参考資料の板書及び説明、実習車両、映像、動画を使用した説明等						
到達目標	各部品の分解、組立ができるようになる。各部品の名称、役割が言えるようになる。						
評価基準	学科試験45点 実技試験45点 平常点10点(授業態度、レポートの内容)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	三級二輪自動車 二級二輪自動車 三級シャシ						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	二輪自動車のアクスル・サスペンション	二輪自動車のアクスル・サスペンションの構造を理解する。					
2回	二輪自動車のアクスル・サスペンション	(実)正立、倒立、リヤ、サスペンションの分解・組立ができるようになる。					
3回	二輪自動車のステアリング装置	ステアリング装置について理解する。					
4回	四輪自動車のアクスル・サスペンション	四輪自動車のアクスル・サスペンションの構造を理解する。					
5回	四輪自動車のアクスル・サスペンション	(実)四輪自動車の実習車にてサスペンションの確認。					
6回	二輪自動車のホイール・アライメント	二輪自動車のホイール・アライメントについて。					
7回	四輪自動車のステアリング装置	四輪自動車ステアリング装置の構造 (実)パワステオイルポンプ分解。					
8回	四輪自動車のホイールアライメント	四輪自動車ホイールアライメントの確認。					
9回	四輪自動車のステアリング等	(実)四輪自動車の実習車にてステアリング・ホイールアライメントの確認。					
10回	二輪自動車のブレーキ装置	二輪自動車のブレーキ装置について理解する。					
11回	二輪自動車のブレーキ装置	(実)二輪ブレーキ装置(キャリパ、マスタシリンダ)分解・組立ができるようになる。					
12回	四輪自動車のブレーキ装置	四輪自動車のブレーキ装置の構造を理解する。					
13回	二輪、四輪自動車のフレーム及びボデー	二輪・四輪自動車に使われるフレーム・ボデーの構造を理解する。					
14回	二輪・四輪自動車シャシ総復習	シャシ単元の総復習					
15回	単元試験						
16回							
17回							
18回							
備考	サスペンションやステアリング装置はオートバイの乗り味に影響する部分です。しっかりと構造を理解し、整備をすることにより素晴らしい乗り味にもなりますが、反面構造を分らず組み立ててしまうと、最悪の危険さえある重要な部品であることをしっかりと認識してください。						

令和2年 二輪整備工学科

科目名	シャシ3	学年	2	学期	1	担当教員名	川端 一史
実施日	月・火・水	実施時間	1限 ～ 4限				
授業の概要	シャシ各部の分解、組み立て、故障診断						
授業の方法	Dio110、CB400、ゼファー750 NINJYA400、NINJYA250を使用して各部の分解組み立てを行う。						
到達目標	シャシ各部の故障診断ができ、原因を突き止められるようになる。						
評価基準	学科試験45点、実技45点、平常点10点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	3級、2級二輪 3級、2級シャシ 2級ガソリン						
授業計画							
回数	項目	内容					
1回	アクスル及びサスペンション	各種揺動など					
2回	アクスル及びサスペンション	フロントフォークの分解組み立て、各部測定					
3回	アクスル及びサスペンション	フロントフォークの分解組み立て、各部測定					
4回	アクスル及びサスペンション	フロントフォークの分解組み立て、各部測定					
5回	アクスル及びサスペンション	フロントフォークの分解組み立て、各部測定					
6回	アクスル及びサスペンション	リヤサスペンションなど					
7回	ステアリング装置	フロントフォーク、ステアリングシステムの分解組み立て、各部測定					
8回	ステアリング装置	フロントフォーク、ステアリングシステムの分解組み立て、各部測定					
9回	ステアリング装置	スイングアームの状態確認と洗浄・給油・組み立て					
10回	ホイール・タイヤ	ホイールベアリングの点検、ホイールバランスの点検調整					
11回	動力伝達装置	クラッチイン、クラッチストール回転速度など					
12回	動力伝達装置	自動遠心クラッチ、ベルト式自動無段変速機など					
13回	動力伝達装置	ファイナルギヤの分解・組み立て					
14回	動力伝達装置	実車の分解組み立てを行いながら各部測定					
15回	動力伝達装置	シャフト駆動について					
16回	ブレーキ	機械式ドラムブレーキの分解組み立て					
17回	ブレーキ	機械式ドラムブレーキの分解組み立て					
18回	ブレーキ	機械式ドラムブレーキの分解組み立て					
19回	ブレーキ	油圧式ブレーキの分解・洗浄・組み立て・エア抜き					
20回	ブレーキ	油圧式ブレーキの分解・洗浄・組み立て・エア抜き					
21回	シャシ単元総復習	シャシ単元試験に向けた復習					
備考	サスペンションやステアリングの構造・役割は覚えにくい単語が多いですが、しっかり覚えて、サスペンションのセッティングのアドバイスが出来るようになりますように！						

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	電気1	学年	1	学期	2	担当教員名	川端 一史
実施日	火・水・木	実施時間	1限 ～ 4限				
授業の概要	二輪、四輪自動車の電装品構造（点火装置 充電装置 電気の基礎）等						
授業の方法	教科書、参考資料の板書及び説明、実習車両、映像、動画を使用した説明等						
到達目標	電気の基礎を覚える。電気回路の基礎的な測定が出来るようになる。						
評価基準	学科試験45点 実技試験45点 平常点10点(授業態度5点、レポート5点)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	電装品構造 三級二輪自動車						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	電装品構造の基礎	静電気 電流 電圧 電気抵抗 Ω の法則 等					
2回	電装品構造の基礎	静電気 電流 電圧 電気抵抗 Ω の法則 等					
3回	電装品構造の基礎	静電気 電流 電圧 電気抵抗 Ω の法則 等					
4回	半導体の基礎	半導体の種類や役割について					
5回	半導体の基礎	半導体の種類や役割について					
6回	磁気的基础	磁気の性質や法則・電流と磁界の関係について 乾電池で簡単な直流モータ作製実験					
7回	磁気的基础	磁気の性質や法則・電流と磁界の関係について 乾電池で簡単な直流モータ作製実験					
8回	計測	電圧・電流・抵抗の計測について アナログサーキットテスタ作製					
9回	計測	電圧・電流・抵抗の計測について 簡単な回路をサーキットテスタを使用して測定					
10回	バッテリー	バッテリーの構造・化学反応・取り扱い等について サンポールを使ったメッキ加工実験					
11回	バッテリー	バッテリーの構造・化学反応・取り扱い等について バッテリー液比重測定					
12回	バッテリー	バッテリーの構造・化学反応・取り扱い等について					
13回	充電装置	充電装置の構造・役割・名称について 二輪マグネット式オルタネータ分解					
14回	充電装置	充電装置の構造・役割・名称について 四輪励磁式オルタネータ分解					
15回	点火装置	点火装置の構造・機能・作動について					
16回	点火装置	点火装置の構造・役割・作動について 二輪(スーパーカブ)を使用して点火装置の測定					
17回	スパークプラグ	スパークプラグの構造・名称・役割について					
18回	スパークプラグ	スパークプラグの構造・名称・役割について スパークプラグの交換方法について					
19回	電装復習	電装系総復習					
20回	単元試験	単元試験					
備考							

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	電気2	学年	1	学期	3	担当教員名	川端
実施日	火・水・木	実施時間	1限 ～ 4限				
授業の概要	二輪、四輪自動車の電装品構造（始動装置、灯火装置、計器装置、ホーン、冷暖房装置）						
授業の方法	教科書、参考資料の板書及び解説。実習車両や映像を使用して説明等						
到達目標	電気装置の構造を覚える。電気の流れを理解する。始動装置の分解組立ができるようになる。						
評価基準	学科試験45点 実技試験45点 平常点10点（授業態度7点、レポート3点）						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。（1は欠点）						
使用教科書	三級二輪自動車 二級二輪自動車 三級ガソリン 三級シャシ 等						
授業計画							
回数	項目		内 容				
1回	電装1 復習		電装品構造1の復習 Ωの法則 磁気、半導体の種類や役割について				
2回	電装1 復習		電装品構造1の復習 バッテリ 充電装置 点火装置の構造や役割について				
3回	始動装置（二輪）		二輪で使用される始動装置について 構造や役割の理解				
4回	始動装置（二輪）		二輪で使用される始動装置の回路について フェライト型スタータモータの分				
5回	始動装置（四輪）		四輪で使用される始動装置について 構造や役割の理解				
6回	始動装置（四輪）		直流直巻式リダクション型スタータモータの分解組立				
7回	灯火装置		二輪、四輪に使用される灯火装置について ヘッドライト光軸調整方法等				
8回	計器装置 ホーン ワイパー		二輪、四輪に使用される計器装置 ホーンについて ワイパーの作動原理の				
9回	冷暖房装置		冷暖房装置について 冷凍サイクルの説明				
10回	電装2 復習		電装品構造2 復習見直し				
11回	単元試験		単元試験				
12回							
13回							
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考	どんなオートバイにも始動装置は装着されており、使用頻度が高く電気式は特に消耗しやすい部分でもあります。スタータモータが悪くなると始動できないというトラブルになりますし、それは突然起こることが多いです。その為しっかりと知識、技術を身につけてトラブルが起こったとしても冷静に対処できるようになりましょう。						

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	電気3	学年	2	学期	2	担当教員名	鴨谷 健二
実施日	月・火・木	実施時間	1限 ～ 4限				
授業の概要	二輪、四輪自動車の電装品構造（分解・組み立て・故障診断）						
授業の方法	教科書、参考資料の板書及び解説。実習車両や映像を使用して説明等						
到達目標	各部の測定値より、故障個所の特定を行えるようになる。						
評価基準	学科試験45点 実技試験45点 平常点10点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。（1は欠点）						
使用教科書	三級二輪自動車 二級二輪自動車 三級ガソリン 二級ガソリン 三級シャシ 等						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	始動装置について	DIO50を使用し、始動系統の故障診断（電圧測定・導通測定による判定）					
2回	始動装置について	DIO50を使用し、始動系統の故障診断（電圧測定・導通測定による判定）					
3回	始動装置について	DIO110を使用し、始動系統の故障診断（電圧測定・導通測定による判定）					
4回	始動装置について	DIO110を使用し、始動系統の故障診断（電圧測定・導通測定による判定）					
5回	始動装置について	Zephyr750を使用し、始動系統の故障診断（電圧測定・導通測定による判定）					
6回	充電装置について	DIO50、DIO110を使用し、充電系統の回路図作成					
7回	充電装置について	DIO50、DIO110を使用し、充電系統の故障診断（電圧測定・導通測定による判定）					
8回	充電装置について	DIO110、ZEPHYR750を使用し、充電系統の故障診断（電圧測定・導通測定による判定）					
9回	充電装置について	ZEPHYR750を使用し、充電系統の故障診断（電圧測定・導通測定による判定）					
10回	充電装置について	ZEPHYR750を使用し、充電系統の故障診断（電圧測定・導通測定による判定）					
11回	点火装置について	DIO110を使用し、点火系統の故障診断（電圧測定・導通測定による判定）					
12回	点火装置について	DIO110を使用し、点火系統の故障診断（電圧測定・導通測定による判定）					
13回	点火装置について	DIO110を使用し、点火系統の故障診断（電圧測定・導通測定による判定）					
14回	総復習	DIO50、DIO110、ZEPHYR750を使用して総復習					
15回	単元試験	単元試験					
備考	最近のオートバイは一部のモデルを除けばインジェクション（電子制御）化されており、専用の診断機を接続すれば故障診断が出来ますが、全ての作業に適応はしていません。各部の測定を行うことで故障診断を行うスキルは必須なので、しっかり身に付けましょう。						

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	法規・点検	学年	2	学期	1	担当教員名	川端 一史
実施日	月・火・水・金	実施時間	1限 ～ 4限				
授業の概要	道路運送車両法・車両点検手順を理解する。						
授業の方法	法令の教科書を使用して道路運送車両法。実車を使用して点検手順を練習。						
到達目標	法令に基づいた車両点検を行い、点検整備記録簿の記入も行えるようになる。						
評価基準	学科試験45点、実技45、点平常点10点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	法令教本						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	日常点検	NSR50(走行会車両)を使用して日常点検実施。自動車の種類、登録					
2回	日常点検	NSR50(走行会車両)を使用して日常点検実施。保安基準、点検					
3回	1年点検	NSR50(走行会車両)を使用して日常点検実施。検査					
4回	1年点検	CB400を使用して1年点検実施。認証・指定制度					
5回	1年点検	CB400を使用して1年点検実施。その他、自動車構造					
6回	1年点検	DiO110を使用して1年点検実施。自動車の装置					
7回	1年点検	DiO110を使用して1年点検実施。自動車の装置					
8回	2年点検	CB400を使用して2年点検実施。自動車の装置					
9回	2年点検	CB400を使用して2年点検実施。自動車の装置					
10回	2年点検	ニンジャ400、ニンジャ250を使用して2年点検実施。自動車の装置					
11回	2年点検	ニンジャ400、ニンジャ250を使用して2年点検実施。自動車の装置					
12回	単元試験						
13回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考	法令は、整備士資格の国家試験の全てで出題されます。 また、どこのショップに就職しても、定期点検作業は必ず行う作業です。時間内で仕上げようと思うと、要領よくスムーズに作業を進めなければなりません。しっかりと今のうちから作業に慣れておいてください。						

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	自動車総合	学年	2	学期	3	担当教員名	鴨谷 健二
実施日	月・火・水・木・金	実施時間	1限 ～ 4限				
授業の概要	電子制御装置・安全装置の構造、故障診断						
授業の方法	アクセラ等の実車を使用し、各部の構造や故障診断を行う。						
到達目標	電子制御装置・安全装置の構造を理解する。						
評価基準	学科試験45点、実技45点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	2級、3級ガソリン自動車(エンジン・ガソリン)、法令教材						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	エンジン	EFI、LPG、構造・故障診断					
2回	エンジン	EFI、LPG、構造・故障診断					
3回	エンジン	EFI、LPG、構造・故障診断					
4回	エンジン	EFI、LPG、構造・故障診断					
5回	エンジン	EFI、LPG、構造・故障診断					
6回	エンジン	EFI、LPG、構造・故障診断					
7回	EFI	電子制御燃料噴射装置の構造、故障診断					
8回	EFI	電子制御燃料噴射装置の構造、故障診断					
9回	EFI	電子制御燃料噴射装置の構造、故障診断					
10回	EFI	電子制御燃料噴射装置の構造、故障診断					
11回	EFI	電子制御燃料噴射装置の構造、故障診断					
12回	EFI	電子制御燃料噴射装置の構造、故障診断					
13回	EFI	電子制御燃料噴射装置の構造、故障診断					
14回	EFI	電子制御燃料噴射装置の構造、故障診断					
15回	EFI	電子制御燃料噴射装置の構造、故障診断					
16回	シャシ	A/T、ABS、TCS、構造・故障診断					
17回	シャシ	A/T、ABS、TCS、構造・故障診断					
18回	シャシ	A/T、ABS、TCS、構造・故障診断					
19回	シャシ	A/T、ABS、TCS、構造・故障診断					
備考							

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	総合自動車	学年	2	学期	3	担当教員名	鴨谷 健二
実施日	月・火・水・木・金	実施時間	1限 ～ 4限				
授業の概要	電子制御装置・安全装置の構造、故障診断						
授業の方法	アクセラ等の実車を使用し、各部の構造や故障診断を行う。						
到達目標	電子制御装置・安全装置の構造を理解する。						
評価基準	学科試験50点、実技50点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	2級、3級ガソリン自動車(エンジン・ガソリン)、法令教材						
授業計画							
回数	項目	内 容					
20回	動力伝達	オートマチックトランスミッション(A/T)					
21回	動力伝達	オートマチックトランスミッション(A/T)					
22回	動力伝達	オートマチックトランスミッション(A/T)					
23回	動力伝達	オートマチックトランスミッション(A/T)					
24回	動力伝達	オートマチックトランスミッション(A/T)					
25回	動力伝達	オートマチックトランスミッション(A/T)					
26回	制動装置	ブレーキ装置の構造					
27回	電気装置	SRS、NAVI					
28回	電気装置	SRS、NAVI					
29回	電気装置	SRS、NAVI					
30回	電気装置	SRS、NAVI					
31回	法令点検	1・2年点検の実施					
32回	法令点検	1・3年点検の実施					
33回	法令点検	1・4年点検の実施					
34回	単元試験	学科試験50点、実技試験50点					
備考							

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	サービス実務1	学年	1	学期	1	担当教員名	川端 齊藤
実施日	水曜日又は金曜日	実施時間	1限 ～ 4限				
授業の概要	・タイヤレバーを使用したタイヤ交換 ・車両の積み込み練習 ・セファーを使用したペイント実習						
授業の方法	・単品ホイールを使用したタイヤの脱着練習 ・CB400を使用した積み込み練習						
到達目標	10分以内に出来るだけ丁寧な作業でタイヤの脱着を行う						
評価基準	学科試験45点 実技試験45点(ペイント) 平常点10点(タイヤ交換実習5点、ペイント実習5点)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	教科書は特に使用しない						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	2輪関連基礎	走行会 走行時の注意事項 フラッグの理解 その他注意事項					
2回	2輪関連基礎	12インチ17インチタイヤのタイヤ交換練習 (タイヤレバー使用)					
3回	2輪関連基礎	12インチ17インチタイヤのタイヤ交換練習 (タイヤレバー使用)					
4回	ペイント実習	ゼファー750の外装を使用した単色ペイント塗装実習					
5回	ペイント実習	ゼファー750の外装を使用した単色ペイント塗装実習					
6回	ペイント実習	ゼファー750の外装を使用した単色ペイント塗装実習					
7回	ペイント実習	ゼファー750の外装を使用した単色ペイント塗装実習					
8回	ペイント実習	ゼファー750の外装を使用した単色ペイント塗装実習					
9回	ペイント実習	ゼファー750の外装を使用した単色ペイント塗装実習					
10回	ペイント実習	ゼファー750の外装を使用した単色ペイント塗装実習					
11回							
12回							
13回							
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考	小さなホイール(10インチ以下)や大きなホイール(18インチ以上)のタイヤ交換はタイヤレバーを使った手組が一般的です。手組での交換は慣れるまで大変で時間が掛かりますが、丁寧な作業を心がけ1秒でも素早く出来るように何度も練習して下さい。						

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	サービス実務2	学年	1	学期	2	担当教員名	川端 一史
実施日	金	実施時間	1限 ～ 4限				
授業の概要	タイヤ交換 ホイールベアリング交換 ドライブチェーン清掃給油調整等 実務に必要な要素						
授業の方法	実習車両からホイールを取り外しタイヤ交換やチェーン調整等を行う						
到達目標	制限時間内にタイヤレバーで17インチホイールのタイヤを脱着交換できるようになる						
評価基準	学科試験45点 実技試験45点 平常点10点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	三級二輪 三級シャン						
授業計画							
回数	項目		内容				
1回	車両からタイヤの脱着		CB400のRタイヤの取り外し方法、取り付け方法				
2回	スズキ二輪 技術講習		スズキ二輪様 技術講習会				
3回	タイヤ交換交換練習		車両から取り外し後タイヤ交換の練習				
4回	危険物試験対策		試験前危険物実践問題 実施				
5回	タイヤ交換練習 パンク修理		チューブタイヤのタイヤ交換練習 チュープレスタイヤのパンク修理				
6回	ドライブチェーン清掃給油調整		ドライブチェーンの取り扱いについて 調整、手入れの方法等				
7回	チューブタイヤパンク修理		チューブタイヤのタイヤ交換練習 チューブタイヤのパンク修理				
8回	タイヤ交換練習		チュープレスタイヤのタイヤ交換 (タイム測定)				
9回	タイヤ交換練習		学科 タイヤについて (三級二輪 三級シャン)				
10回	タイヤ交換練習		学科 タイヤについて (三級二輪 三級シャン)				
11回	タイヤ交換練習		チュープレスタイヤのタイヤ交換 (タイム測定)				
12回							
13回							
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考	制限時間内で完璧な作業を行う為には、何度も何度も繰り返し練習による経験が必須です。工賃は時間レートで決まっていますので短時間で終わらず方がお店の売り上げアップに繋がります。今回は10分以内で作業が完了するようにしましょう。						

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	サービス実務3	学年	1	学期	3	担当教員名	川端 一史
実施日	金	実施時間	1限 ～ 4限				
授業の概要	車両積み込み 車両ロープ固定 パーツリスト検索方法						
授業の方法	ゼファ750(CB400)の積み下ろし作業 ロープ固定含む						
到達目標	制限時間内にゼファ750の軽トラックへの積み込み、固定、積み下ろし作業ができるようになる。						
評価基準	学科試験45点 実技試験45点 平常点10点 (積み込み実習のタイムにて反映する)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	三級シャン						
授業計画							
回数	項目		内容				
1回	パーツリストの取り扱い		各メーカーのパーツリストの検索方法の説明 工賃の計算方法等				
2回	車両の積み下ろし(ロープ固定)		車両の積み下ろし作業 ロープでの固定方法の説明				
3回	車両の積み下ろし(ロープ固定)		車両の積み下ろし作業、(学科)ホイール及びタイヤについて 三級シャン				
4回	車両の積み下ろし(ロープ固定)		車両の積み下ろし作業、(学科)ホイール及びタイヤについて 三級シャン				
5回	車両の積み下ろし(ロープ固定)		車両の積み下ろし作業、(試験前最終練習日、学科試験対策)				
6回							
7回							
8回							
9回							
10回							
11回							
12回							
13回							
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考	オートバイのトラックへの積み込み作業はオートバイメカニックにとって必ず必要になるスキルです。しかもそれは入社間もない新人メカニックの仕事内容の一つです。在学中にしっかりと学び正確で短時間で完了するように繰り返し練習しましょう！						

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	サービス実務4	学年	2	学期	1	担当教員名	鴨谷 健二
実施日	金	実施時間	1限 ～ 4限				
授業の概要	オートバイのトラックへの積み込み。損害保険募集人試験対策						
授業の方法	ZEPHYR750を使用し、軽トラックへの積み込み練習						
到達目標	1年次の作業を、時間短縮・精度向上を目的に行う。						
評価基準	学科試験45点 実技試験45点 平常点10点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	損害保険募集人資格資料						
授業計画							
回数	項目		内 容				
1回	走行会車両準備		走行会車両の最終確認、備品準備、トラックへの積み込み				
2回	車両の積み込み固定		ZEPHYR750を使用し、軽トラックへの積み込み固定				
3回	車両の積み込み固定		ZEPHYR750を使用し、軽トラックへの積み込み固定				
4回	任意保険について		損害保険募集人資格対策(基礎単位)				
5回	任意保険について		損害保険募集人資格対策(基礎単位)				
6回	車両の積み込み固定		ZEPHYR750を使用し、軽トラックへの積み込み固定				
7回	任意保険について		損害保険募集人資格対策(自動車単位)				
8回	任意保険について		損害保険募集人資格対策(自動車単位)				
9回	車両の積み込み固定		ZEPHYR750を使用し、軽トラックへの積み込み固定				
10回	単元試験		ZEPHYR750を使用し、軽トラックへの積み込み固定				
備考	オートバイのトラックへの積み込み作業は必須スキルです。 前年度も練習を行いました。更なる時間の短縮と作業の正確性向上のために繰り返し練習しましょう！						

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	サービス実務5	学年	2	学期	2	担当教員名	鴨谷 健二
実施日	金	実施時間	1限 ～ 4限				
授業の概要	走行可能車両からホイールを取り外してタイヤ交換						
授業の方法	ZEPHYR750・CB400・NSR50を使用し、タイヤ交換						
到達目標	1年次の作業を、時間短縮・精度向上を目的に行う。						
評価基準	学科試験45点 実技試験45点 平常点10点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書							
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	実務レベルのタイヤ交換	タイヤチェンジャーを使用し、タイヤ交換練習					
2回	実務レベルのタイヤ交換	タイヤチェンジャーを使用し、タイヤ交換練習					
3回	実務レベルのタイヤ交換	タイヤチェンジャーを使用し、タイヤ交換練習					
4回	実務レベルのタイヤ交換	タイヤチェンジャーを使用し、タイヤ交換練習					
5回	実務レベルのタイヤ交換	タイヤチェンジャーを使用し、タイヤ交換練習					
6回	実務レベルのタイヤ交換	タイヤチェンジャーを使用し、タイヤ交換練習					
7回	実務レベルのタイヤ交換	タイヤチェンジャーを使用し、タイヤ交換練習					
8回	実務レベルのタイヤ交換	タイヤチェンジャーを使用し、タイヤ交換練習					
9回	単元試験	タイヤチェンジャーを使用したタイヤ交換の試験					
備考	タイヤ交換は、クイック作業の中でも作業回数が多いです。 また、ホイールは傷が付きやすく、お客様の目にも触れやすいので小さな傷でも付けてはいけません。 繰り返し練習し、時間の短縮と精度を向上させましょう。						

令和2年度 二輪整備工 学科

科目名	総合工学1(数学)	学年	1	学期	1	担当教員名	小野 俊一郎
実施日	月曜日	実施時間	2限				
授業の概要	整備士に必要な計算能力を習得する。						
授業の方法	教科書にそったプリントを配布します。 毎時間、プリントを実施していきます。						
到達目標	整備士に必要な計算問題が解ける様にする。						
評価基準	中間試験12.5点、期末試験35点、平常点2.5点の合計50点。 但し、総合工学(工学一般)との合算で評価						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	自動車整備士の数学 及び 配布のプリント						
授業計画							
回 数	項 目		内 容				
1回	基礎学力確認テスト		基礎的な計算能力把握の為のテストを実施します。(成績には関係しません)				
2回	基礎学力確認テスト 解説		基礎学力確認テストの解き方の解説				
3回	中間試験(1回目)		基礎学力テストの内容で、習熟度を測る。(成績に反映されます。)				
4回	単位変換、速度の計算問題1		単位変換及び速度の求め方				
5回	単位変換、速度の計算問題2		単位変換及び速度の求め方				
6回	平均速度1		平均速度の求め方				
7回	平均速度2		平均速度の求め方				
8回	平均ピストンスピード		平均ピストンスピードの求め方				
9回	中間試験(2回目)		平均速度、平均ピストンスピードの求め方について出題。(成績に反映されます。)				
10回	加速度1		加速度・減速度の求め方				
11回	加速度2		加速度・減速度の求め方				
備考	授業の次の週の最初に確認テスト(小テスト)を実施します。 成績には反映されませんが、習熟度の低い学生は居残りで補習を受けなくてはなりません。 補習は月曜の4限目に実施します。						

※総合工学の授業は「数学」と「工学一般」に分かれています。

※授業、テストはそれぞれ別で行いますが、評価は両方の合計(平均)で行いません。

科目名	総合工学2(数学)	学年	1	学期	2	担当教員名	小 野
実施日	月曜日	実施時間	2限				
授業の概要	整備士に必要な計算能力を習得する。						
授業の方法	教科書にそったプリントを配布します。 毎時間、プリントを実施していきます。						
到達目標	整備士に必要な計算問題が解ける様にする。						
評価基準	中間試験12.5点、期末試験35点、平常点2.5点の合計50点。 但し、総合工学(工学一般)との合算で評価						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	自動車整備士の数学 及び 配布のプリント						
授業計画							
回 数	項 目		内 容				
1回	1学期 復習		速度や加速度等の問題。 1学期に習った内容の復習				
2回	速度計 誤差 & 誤差率 1		速度計の誤差、誤差率の求め方を習得する。				
3回	速度計 誤差 & 誤差率 2		速度計の誤差、誤差率の求め方を習得する。				
4回	仕事と仕事率 1		仕事、仕事率の求め方を習得する。				
5回	仕事と仕事率 2		仕事、仕事率の求め方を習得する。				
6回	圧力 1		圧力の求め方を習得する。				
7回	圧力 2		圧力の求め方を習得する。				
8回	圧力 3		圧力の求め方を習得する。				
9回	中間テスト/トルク 1		仕事 & 圧力の中間テスト トルクの求め方を習得する。				
10回	トルク 2		トルクの求め方を習得する。				
11回	トルク 3		トルクの求め方を習得する。				
12回	ギヤ比・トルク 1		ギヤの計算問題が出来る様になる。				
13回	ギヤ比・トルク 2		ギヤの計算問題が出来る様になる。				
備考	授業の次の週の最初に確認テスト(小テスト)を実施します。 成績には反映されませんが、習熟度の低い学生は居残りで補習を受けなくてはなりません。 補習は月曜の4限目に実施します。						

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	総合工学3(数学)	学年	1	学期	3	担当教員名	小 野
実施日	月曜日	実施時間	2限				
授業の概要	整備士に必要な計算能力を習得する。						
授業の方法	教科書にそったプリントを配布します。 毎時間、プリントを実施していきます。						
到達目標	整備士に必要な計算問題が解ける様にする。						
評価基準	期末試験35点、平常点 2.5点の合計37.5点。 但し、総合工学(工学一般)との合算で評価						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	自動車整備士の数学 及び 配布のプリント						
授業計画							
回 数	項 目	内 容					
1回	プリントNo23	プーリの計算問題					
2回	プリントNo24	プーリの計算問題 確認テスト プラネタリギヤの計算問題					
3回	プリントNo25	プラネタリギヤの計算問題 確認テスト トルク・てこの計算問題					
4回	プリントNo26	トルク・てこの計算問題 確認テスト てこ・荷重計算問題					
5回	プリントNo27	てこ・荷重計算問題 確認テスト 荷重計算					
6回	プリントNo28	てこ・荷重計算問題 確認テスト 荷重計算					
7回							
8回							
9回							
10回							
11回							
12回							
13回							
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考							

学科

科目名	総合工学3(製図)	学年	1	学期	3	担当教員名	平城 公一郎
実施日	月曜日	実施時間	1 時限目				
授業の概要	整備士に必要な製図の基礎。						
授業の方法	製図・・・課題作成						
到達目標	2級整備士として設計図の理解と基礎知識の取得。						
評価基準	25点(課題提出)5点(授業態度)70点(期末テスト)計100点を2で割り、計算問題と合計						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	標準製図法						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	製図について	製図の説明 線の種類の説明と線を引く練習					
2回	製図について	線の課題続き					
3回	図法幾何学	図法幾何学説明と課題プリント					
4回	投影法の種類	第三角法 斜投影 等角投影の説明 斜投影、等角投影の課題					
5回	投影法の種類	斜投影、等角投影の課題続き					
6回	投影法の種類	斜投影、等角投影の課題続き					
7回							
8回							
9回							
10回							
11回							
12回							
13回							
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考							

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	総合工学4	学年	2	学期	1	担当教員名	平城 公一郎
実施日	木曜日	実施時間	2・3時限目				
授業の概要	整備士に必要な計算問題 3級ガソリン、シャシ問題						
授業の方法	課題プリントと解説						
到達目標	2級試験に出題される計算問題の習得、4輪ガソリンエンジン、シャシの2級レベルの知識習得						
評価基準	授業態度10点、期末テスト90点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	自動車整備士の数学、3級自動車ガソリン、シャシ						
授業計画							
回 数	項 目		内 容				
1回	荷重計算問題	3級過去問	荷重計算プリント		3級ガソリン過去問		
2回	荷重計算問題	3級過去問	荷重計算プリント		3級シャシ過去問		
3回	性能曲線問題	3級過去問	エンジン・走行性能曲線		3級ガソリン過去問		
4回	性能曲線問題	3級過去問	復習 速度計算		3級シャシ過去問		
5回	復習計算問題	3級過去問	復習 速度計算		3級ガソリン過去問		
6回	復習計算問題	3級過去問	復習 キヤ比計算		3級シャシ過去問		
7回	復習計算問題	3級過去問	復習 合成抵抗		3級ガソリン過去問		
8回	復習計算問題	3級過去問	復習 仕事率		3級シャシ過去問		
9回	復習計算問題	3級過去問	復習 圧力		3級ガソリン過去問		
10回	復習計算問題	3級過去問	復習 荷重計算		3級シャシ過去問		
11回	復習計算問題	3級過去問	復習混合問題		3級ガソリン過去問		
12回							
13回							
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考							

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	総合工学5	学年	2	学期	2	担当教員名	平城 公一郎
実施日	木曜日	実施時間	2・3時限目				
授業の概要	整備士に必要な計算問題 2級ガソリン、シャシ問題						
授業の方法	課題プリントと解説						
到達目標	2級試験に出題される計算問題の習得、4輪ガソリンエンジン、シャシの2級レベルの知識習得						
評価基準	授業態度5点、期末テスト95点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	自動車整備士の数学、2級自動車ガソリン、シャシ						
授業計画							
回数	項目		内 容				
1回	2級計算問題、2級過去問題		荷重、圧力、合成抵抗、等、計算問題 2級ピストン問題、点火順序				
2回	2級計算問題、2級過去問題		仕事率、排気量、ギヤ比、等、計算問題 コントロ、クランク、シリンダ、バルブ、燃焼室				
3回	2級計算問題、2級過去問題		荷重、圧力、合成抵抗、等、計算問題 工学一般、排ガス問題				
4回	2級計算問題、2級過去問題		仕事率、排気量、ギヤ比、等、計算問題 工学一般、冷却装置				
5回	2級計算問題、2級過去問題		荷重、圧力、合成抵抗、等、計算問題 サスペンション、タイヤ、ホイール				
6回	2級計算問題、2級過去問題		仕事率、排気量、ギヤ比、等、計算問題 2級ガソリン混合問題				
7回	2級計算問題、2級過去問題		荷重、圧力、合成抵抗、等、計算問題 2級ガソリン、シャシ問題				
8回	2級計算問題、2級過去問題		仕事率、排気量、ギヤ比、等、計算問題 2級ガソリン、シャシ問題				
9回	2級計算問題、2級過去問題		荷重、圧力、合成抵抗、等、計算問題 2級ガソリン、シャシ問題				
10回	2級計算問題、2級過去問題		仕事率、排気量、ギヤ比、等、計算問題 2級ガソリン、シャシ問題				
11回	2級計算問題、2級過去問題		荷重、圧力、合成抵抗、等、計算問題 2級ガソリン、シャシ問題				
12回	2級計算問題、2級過去問題		荷重、圧力、合成抵抗、等、計算問題 2級ガソリン混合問題				
13回	2級計算問題、2級過去問題		仕事率、排気量、ギヤ比、等、計算問題 2級ガソリン、シャシ問題				
14回	2級計算問題、2級過去問題		荷重、圧力、合成抵抗、等、計算問題 2級ガソリン混合問題				
15回	2級計算問題、2級過去問題		荷重、圧力、合成抵抗、等、計算問題 2級ガソリン、シャシ問題				
16回							
17回							
18回							
備考							

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	総合四輪1	学年	2	学期	1	担当教員名	小野 俊一郎
実施日	木曜日	実施時間	第1限				
授業の概要	2級の教科書に掲載されていないが、自動車に一般的に採用されている技術について知る。						
授業の方法	資料を配布し、内容についての説明を板書、写真、映像により説明します。						
到達目標	周りの人にそれらの技術について聞かれた時に答えられるようになる。						
評価基準	期末試験70点、課題(論文)25点、平常点5点(平常点は授業態度)						
評価	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	特にありません。こちらで用意して配布します。						
授業計画							
回数	項目		内 容				
1回(4/11)	CO ₂ 排出量について		CO ₂ について、排出量について学びます。				
2回(4/25)	可変バルブタイミング機構		可変バルブタイミング機構について学びます。				
3回(5/9)	可変バルブタイミング機構		可変バルブタイミング機構について学びます。				
4回(5/16)	可変バルブタイミング機構		可変バルブタイミング機構について学びます。				
5回(5/23)	自動変速マニュアルミッション		非ATの2ペダル式トランスミッションについて学びます。				
6回(5/30)	自動変速マニュアルミッション		非ATの2ペダル式トランスミッションについて学びます。				
7回(6/6)	ハイブリッド車		ハイブリッド車とはどのような車かについて学びます。				
8回(6/13)	ハイブリッド車		各社、各種ハイブリッド車について学びます。				
9回(6/20)	ハイブリッド車		各社、各種ハイブリッド車について学びます。				
10回(6/27)	ハイブリッド車		各社、各種ハイブリッド車について学びます。				
11回(7/4)	ハイブリッド車		各社、各種ハイブリッド車について学びます。				
備考	HV車については、2級の教科書では習わないし、国家試験にも出ません。しかし、現在市販されている車の半数はHV車です。その他、普通に採用されている技術が沢山あります。 入社後に恥をかくことが無い様、しっかり勉強してください。 配布した資料を綴るファイルを用意して下さい。						

令和2年度 二輪整備工学科

科目名	総合四輪2	学年	2	学期	2	担当教員名	小野 俊一郎
実施日	水曜日	実施時間	第1限				
授業の概要	2級の教科書に掲載されていないが、自動車に一般的に採用されている技術について知る。						
授業の方法	資料を配布し、内容についての説明を板書、写真、映像により説明します。						
到達目標	周りの人にそれらの技術について聞かれた時に答えられるようになる。						
評価基準	期末試験70点、課題(論文)25点、平常点5点(平常点は授業態度)						
評価	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	特にありません。こちらで用意して配布します。						
授業計画							
回数	項目		内 容				
1回(8/22)	燃料電池車について(1)		燃料電池の基本を知る。トヨタ ミライ、ホンダクラリティについて知る。				
2回(8/29)	燃料電池車について(2)		スズキ バークマン、水素燃料車について知る				
3回(9/19)	アイドルリングストップ機構(1)		アイドルリングストップ機構について知る。 種類を知る。				
4回(9/26)	アイドルリングストップ機構(2)		各社の概要を知る。				
5回(10/3)	直噴ガソリンエンジン(1)		直噴噴射式ガソリンエンジンの構造・作動を知る。				
6回(10/10)	直噴ガソリンエンジン(2)		各社の概要を知る。				
7回(10/17)	スタビリティコントロール(1)		スタビリティコントロール(横滑り防止装置)について知る。				
8回(11/1)	運転支援システム(1)		運転支援装置の構造・作動を知る。				
9回(11/8)	運転支援システム(2)		各社の概要を知る。				
10回(11/15)	エアロダイナミクス(1)		エアロダイナミクスとは何かを知る。 なぜ今重要視されているのか知る。				
11回(11/22)	エアロダイナミクス(2)		各社の概要を知る。				
12回(11/29)	エアロダイナミクス(3)		各社の概要を知る。				
13回(12/8)	エアロダイナミクス(4)		各社の概要を知る。				
12月11日	期末試験						
備考	HV車については、2級の教科書では習わないし、国家試験にも出ません。しかし、現在市販されている車の半数はHV車です。 その他、普通に採用されている技術が沢山あります。総合四輪Ⅱでは特に運転支援装置。 現在多くの車両に標準化され、国のサポカー制度も始まっています。入社後に恥をかくことが無い様、しっかり勉強してください。 配布した資料を綴るファイルを用意して下さい。						

科目名	鉄道工学Ⅰ	学年	1	学期	前期	担当教員名	川勝博司
実施日	月曜日	実施時間	第1・2時限				鉄道概論土木編
授業の概要	普通鉄道在来線の「線路」「構造物」「停車場」の土木関連基礎知識を習得する。						
授業の方法	机上の勉強が主体になりますが、実習に代えて映像資料を多用します。						
到達目標	業務を遂行するうえで正しい専門用語が使え、また聞いて内容を正しく理解ができること。						
評価基準	筆記試験 100点満点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	わかりやすい鉄道技術「鉄道概論・土木編」、鉄道六法						
授業計画							
回数	項目	内容					
1回	軌間	軌間とは、軌間の保持、軌間の測定					
2回	曲線と勾配	曲線の種類、スラック、カント、勾配と縦曲線、縦曲線					
3回	施工基面	施工基面とは、施工基面幅、軌道中心間隔、車両限界、建築限界					
4回	軌道	軌道の役割、軌道の構造					
5回		直結軌道、省力化軌道、ロングレール、軌道の知識					
6回	分岐器	分岐器の構造、分岐器の番数、対向と背向					
7回		分岐器の種類、分岐器の知識					
8回	レール	レールの役割、形状、種類、加工、継目、レールの知識					
9回	枕木	役割、具備条件、種類、枕木の知識					
10回	レール締結装置	役割、種類、寸法の知識					
11回	道床バラスト	道床バラストの知識					
12回	ガードレール	目的、種類、ガードレールの知識					
13回	線路諸標	種類、鉄道標識の知識					
14回	踏切道	踏切道の諸元、種類と構造、踏切の知識					
15回	安全側線、車止め	安全側線と車止めの知識					
16回	保線作業	保線作業の概要と保線に関する知識					
17回	軌道変位	軌道変位の種類と許容値					
18回	レール塊の管理	レール道間、損傷の種類、廃替					
備考	もともと鉄道工学は土木・電気・機械にわたり専門用語が多く、基礎を理解していないと面白くない学習です。予習で難解な部分を見つけ、日ごろの学習でフォローし、復習で身に着けることです。昨今のアクシデントやインシデントのニュースで分かるように鉄道業界では更に誠実な人が求められます。授業に集中できない人は鉄道マンになることを諦めてください。						

授業計画			
回数	項目	内容	
19回	橋梁各部の名称	橋梁の基本構造について	
20回	鉄道橋建設の記録	本四運格橋建設の映像	
21回	トンネルの分類	山岳トンネル、都市トンネル、トンネルの知識	
22回	鉄道トンネル建設の記録	青函トンネル建設の映像	
23回	トンネルの維持管理	トンネル覆工の劣化への対応	
24回	土構造物	盛土、切取、のり面防護、のり面防災10訓	
25回	停車場	停車場の知識	
26回		プラットホームの知識	
27回		ホームドアの知識	
28回			
29回			
30回			
31回			
32回			
33回			
34回			
35回			
36回			

科目名	鉄道工学Ⅰ	学年	1	学期	後期	担当教員名	川勝博司
実施日	金曜日	実施時間	第1・2・3時限 鉄道通信・電路設備編				
授業の概要							
鉄道通信は通信の基礎を重点に、電路設備は構造について学びます							
授業の方法							
机上の勉強が主体になりますが、実習に代えて映像資料を多用します。							
到達目標							
通信は原理とシステムを理解する。電路設備は電線路を見て正しく名称と設置理由が言える。							
評価基準							
筆記試験 100点満点							
評価方法							
90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)							
使用教科書							
わかりやすい鉄道技術「鉄道概論・電気編」、基礎電子工学「電子回路編ⅠおよびⅡ」							
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	鉄道通信設備とは	通信設備の種類と構成					
2回	電話設備	アナログ電話機のしくみ、有線指令電話のシステムと特徴					
3回		自動式電話機、磁石電話機、音響呼出電話機					
4回		沿線電話、直通電話、トークバック					
5回	空間波無線	無線の基礎					
6回		不感対策、漏洩同軸ケーブルの構造と特徴					
7回		通信方式					
8回		防護無線、保守管理					
9回	放送設備	放送の原理					
10回		システム構成					
11回	電気時計、監視テレビ	システム構成と運用					
12回	情報収集設備	雨量計、風速計、地震計					
13回	有線伝送路	通信ケーブル、同軸ケーブル、光ケーブル					
14回	無線伝送路	周波数別伝搬形態					
15回	アンテナ	八木アンテナ、パラボラアンテナ					
16回	通信設備の保守管理	電波法					
17回	電路設備の構成	支持物、電車線路、き電線路、高圧配電線路、その他の電線					
18回	電車線路	吊架線式、サードレール式、					
備考							

授業計画			
回数	項目	内容	
19回	電車線の偏位	直線路、曲線路	
20回	電車線材料	吊架線、トロリー線、ハンガー、ドロップバー、	
21回	電車線区分装置	エアークッション、エアージョイント、セクションインシュレーター	
22回	張力調整装置	WTB、STB、ワイヤーダーンバックル	
23回	標子	種類、用途	
24回	電車線の具備条件	牽引、等張力、可撓性	
25回	き電線路	性能、施工、標準張力、雪対策	
26回	支持物	各種ビーム、構成要素、具備条件	
27回	電線路の保守管理	検査のポイント、検査	
28回			
29回			
30回			
31回			
32回			
33回			
34回			
35回			
36回			

科目名	鉄道工学Ⅱ	学年	2	学期	前期	担当教員名	川勝博司
実施日	月曜日	実施時間	第3・4・5・6時限				鉄道信号編
授業の概要	普通鉄道在来線の「信号保安設備」の基礎知識の習得。						
授業の方法	机上の勉強が主体ですが、CADによる配線図作成、PCによる模擬運動も実施します。						
到達目標	運動図表をもとに運動用電気配線図を描くことができ、アナログ論理に強くなる。						
評価基準	筆記試験 100点満点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	わかりやすい「鉄道技術」「鉄道概論・電気編」、鉄道電気技術者のための「信号概論」「運動装置」						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	信号保安設備のやくわり	種類と役割、フェールセーフ					
2回	鉄道信号の種類	鉄道標識、鉄道合図、鉄道警報、鉄道災害の知識					
3回	信号機の区分	構造上の区分、機能上の区分					
4回	信号装置の管理	信号表示の種類、信号表示方式、保守管理のポイント					
5回	鉄道信号機	鉄道信号機の知識					
6回	軌道回路	軌道回路の原理、軌道回路の知識					
7回		複線式と単線式、有線式と無線式					
8回		レールボンド、インピーダンスボンドの知識					
9回	閉塞信号機	電気配線図をCADで作図 -----CAD室使用					
10回		回路上の部品の説明および動作を解析する。					
11回		電気配線図をCADで作図 -----CAD室使用					
12回	電気転轍機	構造、転轍機の対向と背向、定位、管理のポイント					
13回	運動図表	運動図の各シンボルを理解する。					
14回		運動図をCADで作図 -----CAD室使用					
15回		運動図をCADで作図 -----CAD室使用					
16回		運動図と運動表の関連を学ぶ。鎖錠について知る。					
17回		各進路でこについて運動を読む					
18回	電気配線図	進路で、転轍制御、接近鎖錠、進路鎖錠、信号制御の基本を学ぶ					
備考	鉄道業界での信号保安設備の占める割合は非常に大きく、現場的要素のある実習は本校では設備上不可能です。そのため即戦力が備わるよう回路解析に重点を置き、継電運動の時間を多く取りました。卒業後、みなさんを専門士として一味違う鉄道マンを私自身の実経験を礎に育てます。鉄道工学は努力の上に身につく学問です。鉄道業界では不変の目は非他され、自らも挫折しま						

授業計画		
回数	項目	内容
19回		運動表に従って進路で、進路をCADで描く-----CAD室使用
20回		運動図に従って転轍制御回路図をCADで描く-----CAD室使用
21回		運動図に従って接近鎖錠回路図をCADで描く-----CAD室使用
22回		運動図に従って進路鎖錠回路図をCADで描く-----CAD室使用
23回		運動図に従って信号制御回路図をCADで描く-----CAD室使用
24回	パソコンによる模擬運動	作成した制御回路図をもとに運動プログラムを作成-----PC室使用
25回		作成した制御回路図をもとに運動プログラムを作成-----PC室使用
26回		作成した制御回路図をもとに運動プログラムを作成-----PC室使用
27回		作成した制御回路図をもとに運動プログラムを作成-----PC室使用
28回		作成した制御回路図をもとに運動プログラムを作成-----PC室使用
29回		作成した制御回路図をもとに運動プログラムを作成-----PC室使用
30回		作成した制御回路図をもとに運動プログラムを作成-----PC室使用
31回		
32回		
33回		
34回		
35回		
36回		

科目名	鉄道工学Ⅱ	学年	2	学期	後期	担当教員名	川勝博司
実施日	金曜日	実施時間	第4・5時限				
授業の概要							
電力設備および配電・電灯動力設備の基礎知識を習得する。							
授業の方法							
机上の学習を主とするがスケルトンについてはCADを使って作図とともに理解を深める。							
到達目標							
ビル設備の管理ができる技能をマスターし即戦力を増す。企業の安全についても熟知させる。							
評価基準							
筆記試験 100点満点							
評価方法							
90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)							
使用教科書							
わかりやすい鉄道技術「鉄道概論・電気編」							
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	電気の流れ	発電所					
2回		変電所の一般知識					
3回	高圧配電系統図	高圧配電系統図を作図する。-----CAD室使用					
4回	き電系統図	き電系統図を作図する。-----CAD室使用					
5回	変電設備	電鉄変電所の機器					
6回		変電設備に必要な機器					
7回		変電設備に必要な機器					
8回		変電設備に必要な機器					
9回		スケルトンを作図する。-----CAD室使用					
10回		スケルトンを作図する。-----CAD室使用					
11回		変電所に必要な計測機器、保護装置					
12回		変電所に必要な計測機器、保護装置					
13回		スケルトンを作図する。-----CAD室使用					
14回		スケルトンを作図する。-----CAD室使用					
15回	直流鉄道特有の保護	△故障選択装置、連絡遮断					
16回	変電設備の保守管理	自動制御番号					
17回	変電所内高圧配電設備	設備の説明					
18回		スケルトンを作図する。-----CAD室使用					
備考	この授業では鉄道に特化しない、一般的な知識を多く学びます。CADを使用するのも自分で描く即戦力としてのあなた自身の知識に磨きをかけるものです。 鉄道業界では図面を非常に重要視するため、即戦力としてのCADの能力が必須の項目となります 卒業後、専門士に加え電気主任技術者の資格が得られるよう日頃の学習をまじめにしてください						

授業計画			
回数	項目	内容	
19回	電気室	スケルトンを作図する。-----CAD室使用	
20回		電気室内の設備、進相コンデンサー、幹線設備	
21回		分電盤、照度基準、コンセント	
22回	法的設備	誘導灯、非常照明、非常用発電機	
23回	電気表示器	行先表示器	
24回	動力設備	空調用設備、水位制御	
25回	踏切保安設備	踏切警報柱	
26回		踏切遮断機	
27回		踏切支障報知装置、障害物検知装置	
28回		踏切制御の方式、緩急選別装置	
29回		保守と管理	
30回			
31回			
32回			
33回			
34回			
35回			
36回			

科目名	電気Ⅰ	学年	1	学期	前期	担当教員名	田中
実施日	水曜日	実施時間	第3限・第4限				
授業の概要	第二種電気工事士を取得する為の基礎知識の習得						
授業の方法	教科書の第一章に沿って補充資料プリント配布し、板書により説明をする。						
到達目標	一般的な電気に関連する知識及び情報を提示することで電気技術への動機付けを目指す。						
評価基準	期末試験90点、平常点10点(平常点は授業態度)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	第二種電気工事士試験筆記試験過去問題集、技術評論社						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	身近な電気の話	自宅の電灯やクーラー、温水器、街路灯、電柱などについてイメージで理解					
2回	オームの法則と直流回路	オームの法則の計算式について理解する。					
3回	直流回路の計算	実際にオームの法則の式を使って計算する。					
4回	電圧・電流・抵抗について	各それぞれの意味について理解する。					
5回	抵抗の直列・並列接続につい	抵抗の素子を直列、並列に接続した合成抵抗の計算を理解する。					
6回	直列回路の分圧と分流①	直流回路を流れる電流と素子にかかる電圧について理解する。					
7回	直列回路の分圧と分流②	実習室において回路を組んで実際に上記の結果を確認する。					
8回	電力と発熱について	電力の計算と発熱について理解する。					
9回	交流回路について	交流回路の抵抗素子、コンデンサ素子、コイル素子の性質を理解する。					
10回	正弦波交流電圧について①	正弦波交流はどのようなものか理解する。					
11回	正弦波交流電圧について②	それぞれの三素子に交流を加えて位相について観測を行う。					
12回	三素子の回路計算について	交流を加えたときの計算方法を理解する。					
13回	電力使用の効率(力率)につい	力率の計算について理解する。					
14回	三相交流について①	三相交流は単相交流が基本になっていることを理解する。					
15回	三相交流について②	三相交流の電力の求め方、電圧・電流の計算方法を知る。					
16回							
17回							
18回							
備考	第二種電気工事士資格試験を受験するのは2年生になってからですが、高校で電気を学んでいても、毎晩3時間の学習で2・3週間の時間が必要になります。電気について初めて学習する場合、抽象的なことばかりですので、イメージすることがとても大切になります。1年生の間は具体的な事例を含めて、イメージしやすいように電気に関して動機付けをできるように丁寧な説明を心がけるつもりです。電気の世界も理解できれば素晴らしく面白い世界です。是非頑張ってください。						

令和2年度 鉄道システム学科

科目名	電気Ⅰ	学年	1	学期	後期	担当教員名	田中
実施日	水曜日	実施時間	第3限・第4限				
授業の概要	第二種電気工事士を取得する為の基礎知識の習得						
授業の方法	教科書の第一章に沿って補充資料プリント配布し、板書により説明をする。						
到達目標	一般的な電気に関連する知識及び情報を提示することで電気技術への動機付けを目指す。						
評価基準	期末試験90点、平常点10点(平常点は授業態度)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	第二種電気工事士試験筆記試験過去問題集、技術評論社						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	配電理論と配線設計①	配電に伴う電線の抵抗を理解し、計算方法を学ぶ。					
2回	配電理論と配線設計②	配電には交流が使用されているので、負荷の力率によって消費電力の種類					
3回	電線の許容電流について	電線の太さによって流せる電流の違いを学ぶ。					
4回	幹線の許容電流について	幹線の太さを決める根拠となる許容電流の計算式を理解する。					
5回	配電盤について①	分岐回路の設計の方法を学ぶ。					
6回	配電盤について②	分岐回路の電線の太さで接続できるコンセントの定格が決まることを理解す					
7回	ヒューズと過電流遮断器	使用されている意味と必要性について理解する。					
8回	電気工事の施工方法	電気工事の施工の方法については電気設備技術基準で定められていること					
9回	電気工事士試験の準備①	単線図を見て複線図に直す練習をする。					
10回	電気工事士試験の準備②	単線図を見て複線図に直す練習をする。					
11回	電気工事士試験の準備③	単線図を見て複線図に直す練習をする					
12回	技能の単位作業①	ペンチを使って、輪っかを作る練習をする					
13回	技能の単位作業②	作った輪っかをランプレセプタクルに取り付けを行う。					
14回	技能の単位作業③	露出コンセントへの取付を行う。					
15回							
16回							
17回							
18回							
備考							

令和2年度 鉄道システム学科

科目名	電気Ⅱ	学年	2	学期	前期	担当教員名	田中
実施日	水曜日	実施時間	第5限・第6限				
授業の概要	第二種電気工事士の取得を目標とした授業						
授業の方法	教科書の第一章に沿って補充資料プリント配布し、板書により説明をする。						
到達目標	学科試験の過去問70%以上、及び単線図13課題の複線図化と技能候補問題の完成						
評価基準	期末試験80点、平常点20点(平常点は授業態度)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	第二種電気工事士技能試験候補問題、電気書院						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	単線図について①	単線図No.1からNo6まで複線図の練習。 テキストP18～P33					
2回	単線図について②	単線図No.6からNo.13まで複線図の練習。 テキストP18～P33					
3回	配線器具と図記号	器具の説明。 テキストP34～P38					
4回	基本単位作業①	器具それぞれを接続して単位作業として完成させる。 テキストP40～P88					
5回	学科試験対策①	過去問を解く練習					
6回	基本単位作業②	器具それぞれを接続して単位作業として完成させる。 テキストP40～P88					
7回	学科試験対策②	過去問を解く練習					
8回	基本単位作業③	器具それぞれを接続して単位作業として完成させる。 テキストP40～P88					
9回	学科試験対策③	過去問を解く練習					
10回	基本単位作業④	器具それぞれを接続して単位作業として完成させる。 テキストP40～P88					
11回	学科試験対策④	過去問を解く練習					
12回	基本単位作業⑤	器具それぞれを接続して単位作業として完成させる。 テキストP40～P88					
13回	技能候補問題No1について	実際の要領で課題の作成に取り組む					
14回	学科試験対策⑤	過去問を解く練習					
15回	学科試験対策⑥	過去問を解く練習					
16回	学科試験対策⑦	過去問を解く練習					
17回	学科試験対策⑧	過去問を解く練習					
18回							
備考							

令和2年度 鉄道システム学科

科目名	電気Ⅱ	学年	2	学期	後期	担当教員名	田中
実施日	水曜日	実施時間	第5限・第6限				
授業の概要	第二種電気工事士の取得を目標とした授業						
授業の方法	教科書の第一章に沿って補充資料プリント配布し、板書により説明をする。						
到達目標	学科試験の過去問70%以上、及び単線図13課題の複線図化と技能候補問題の完成						
評価基準	期末試験80点、平常点20点(平常点は授業態度)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	第二種電気工事士技能試験候補問題、電気書院						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	技能候補問題No2について	実際の要領で課題の作成に取り組む					
2回	技能候補問題No3について	実際の要領で課題の作成に取り組む					
3回	技能候補問題No5について	実際の要領で課題の作成に取り組む					
4回	技能候補問題No7について	実際の要領で課題の作成に取り組む					
5回	技能候補問題No9について	実際の要領で課題の作成に取り組む					
6回	技能候補問題No10について	実際の要領で課題の作成に取り組む					
7回	技能候補問題No13について	実際の要領で課題の作成に取り組む					
8回							
9回							
10回							
11回							
12回							
13回							
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考							

令和2年度 鉄道システム学科

科目名	安全輸送Ⅰ	学年	1	学期	前期前半	担当教員名	市場
実施日	月・水	実施時間	月－3,4 水－1,2				
授業の概要	列車運行に係わる法令、規程、安全を支える仕組みを学ぶ						
授業の方法	各テーマに沿った講義及び配布資料への講義内容の記入又はグループワークによる討議。						
到達目標	鉄道の安全を支える基礎知識を学び、安全を最優先とする行動の必要性を知る。						
評価基準	筆記試験－90点、平常点(レジュメへの記載、感想文、小テストの点数)－10点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	特になし。						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	鉄道事業の使命	鉄道会社の事業内容の説明 鉄道事業の使命について					
2回	鉄道会社における業務	鉄道会社における”仕事”は、何のために行うか。					
3回	安全を支える柱	鉄道事業を支える安全の柱について 法令について					
4回	鉄道従事員について	各業務別の鉄道従事員の種類について					
5回	鉄道を安全に走らせる設備	線路、電気設備等列車の運転に係わる設備について					
6回	鉄道に関する法令	鉄道事業に関係する各法令について					
7回	安全の処置について	安全の綱領、鉄道従事員として求められる行動について					
8回	過去の事故から学ぶ①	東日本大震災～仙石線野蒜駅～					
9回	鉄道車両について	「列車」と「車両」の違いについて 各車両の形式の付与方①					
10回	鉄道車両について	各車両の形式の付与方②					
11回	小テスト	前期中間試験出題範囲を復習					
12回	過去の事故から学ぶ②	三河島事故について					
13回							
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考							

科目名	安全輸送Ⅰ	学年	1	学期	後期前半	担当教員名	市場
実施日	月・水	実施時間	月－3,4	水－1,2			
授業の概要	列車運行に係わる法令、規程、安全を支える仕組みを学ぶ						
授業の方法	各テーマに沿った講義及び配布資料への講義内容の記入又はグループワークによる討議。						
到達目標	鉄道の安全を支える基礎知識を学び、安全を最優先とする行動の必要性を知る。						
評価基準	筆記試験－90点、平常点(レジュメへの記載、感想文、小テストの点数)－10点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	特になし。						
授業計画							
回 数	項 目	内 容					
1回	実践 列車ダイヤ作成	運行図表に列車ダイヤを記載する作業					
2回	構内作業ダイヤ	構内作業ダイヤの記載内容と各記号の意味					
3回	構内作業ダイヤ	記載されている内容を読み解く					
4回	運用図表の見方	記載内容と各記号の意味					
5回	運用図表の見方	使用順序表と行路表の見方					
6回	実践 運転整理	運行図表、構内作業ダイヤ、運用図表を見ながら運転整理をしてみる					
7回	貨物列車の組成方	貨物列車がどのように組成されているか					
8回	貨物列車の組成方	組成の各種条件について					
9回	実践 貨物列車の運転整理	運行図表、構内作業ダイヤ、運用図表、貨物列車の組成を加味した実践					
10回	鉄道事故について	列車防護、ハインリッヒの法則					
11回	鉄道事故について	鉄道運転事故とインシデントについて					
12回	小テスト	後期中間試験出題範囲を復習					
13回	過去の事故から学ぶ④	福知山線脱線事故					
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考							

科目名	安全輸送Ⅰ	学年	1	学期	後期後半	担当教員名	市場
実施日	月・水	実施時間	月－3,4	水－1,2			
授業の概要	列車運行に係わる法令、規程、安全を支える仕組みを学ぶ						
授業の方法	各テーマに沿った講義及び配布資料への講義内容の記入又はグループワークによる討議。						
到達目標	鉄道の安全を支える基礎知識を学び、安全を最優先とする行動の必要性を知る。						
評価基準	筆記試験－90点、平常点(レジュメへの記載、感想文、小テストの点数)－10点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	特になし。						
授業計画							
回 数	項 目		内 容				
1回	過去の事故から学ぶ⑤		のぞみ34号重大インシデント				
2回	過去の事故から学ぶ⑥		上越線列車衝突事故				
3回	過去の事故から学ぶ⑦		餘部鉄橋列車脱線事故と羽越列車脱線事故				
4回	標識類について		標識の意味と役割について				
5回	標識類について		入換信号機と入換標識の違いについて				
6回	線路閉鎖		線路閉鎖の意味、必要とする作業、用語解説				
7回	工事関係の種類		各種工事の実施内容について				
8回	工事等の正しい取扱い		工事関係に係わる正しい手続と確認について				
9回	鉄道施設に関する必要事項		建築限界と車両限界				
10回	過去の事故から学ぶ⑧		京浜東北線川崎駅構内列車脱線事故				
11回	総括		安全輸送Ⅰで学んだ内容を復習				
12回	小テスト		後期期末試験出題範囲を復習				
13回	過去の事故から学ぶ⑨		東北本線東青森駅構内及び鹿兒島本線千早操構内人身傷害事故				
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考							

令和2年度 鉄道システム学科

科目名	安全輸送Ⅱ	学年	2	学期	前期前半	担当教員名	市場
実施日	月・火	実施時間	月－1,2	火－1,2			
授業の概要	安全を確保する仕組み、規程及び異常時での対応方を学び、安全最優先の”考動”とは何かを知る。						
授業の方法	各テーマに沿った講義及び配布資料への講義内容の記入又はグループワークによる討議。						
到達目標	安全を確保する仕組み、異常時における対処方を学び、鉄道員とそん色のない”考動”力を得る。						
評価基準	期末試験…90点、平常点(レジュメへの記載、感想文、小テストの点数)…10点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	特になし。						
授業計画							
回 数	項 目	内 容					
1回	(復習)鉄道員の使命	鉄道員の業務は何のために行うのか。					
2回	過去の事故から学ぶ	東海道線塚本駅構内人身事故					
3回	配線略図の見方	配線略図に記載される各記号の説明					
4回	連動図表の見方	連動装置と鎖錠についてと用語解説					
5回	鎖錠	各鎖錠の種類とその仕組みについて					
6回	鎖錠 ②	各鎖錠の種類とその仕組みについて					
7回	過走余裕距離と転てつ器	過走余裕距離と転てつ器の定位・反位のルールについて					
8回	連動図表の見方	連動図表に記載されている内容について					
9回	過去の事故から学ぶ	長崎本線肥前竜王駅列車同時進入					
10回	(復習)鉄道信号	(復習)従属信号機、信号付属器、臨時信号機について					
11回	臨時信号機、手信号、特殊信	各現示の意味について					
12回	特殊信号	特殊信号の現示について					
13回	小テスト	前期中間試験までの出題範囲を復習					
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考							

令和2年度 鉄道システム学科

科目名	安全輸送Ⅱ	学年	2	学期	後期前半	担当教員名	市場
実施日	月・火	実施時間	月－1,2	火－1,2			
授業の概要	安全を確保する仕組み、規程及び異常時での対応方を学び、安全最優先の”考動”とは何かを知る。						
授業の方法	各テーマに沿った講義及び配布資料への講義内容の記入又はグループワークによる討議。						
到達目標	安全を確保する仕組み、異常時における対処方を学び、鉄道員とそんな色のない”考動”力を得る。						
評価基準	期末試験…90点、平常点(レジュメへの記載、感想文、小テストの点数)…10点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	特になし。						
授業計画							
回 数	項 目	内 容					
1回	テスト解説	前期期末試験の解説					
2回	指導通信式の取扱い	指導通信式の取扱いについて					
3回	指導券と指導通信式	指導券の取扱いと指導通信式の取扱いについて					
4回	実習 指導通信式	グループワーク 指導通信式取扱い実践					
5回	指導票と閉そく信号機の取扱	指導票の種類と取扱いについてと代用閉そく施行時の閉そく信号機の取扱い					
6回	指導指令式の取扱い	指導指令式の取扱いについて					
7回	実習 指導通信式	グループワーク 指導指令式の取扱いについて					
8回	伝令法	伝令法の取扱いについて					
9回	伝令法と救済運転	伝令法の取扱いと救済運転について					
10回	小テスト	後期中間試験までの内容を復習するテスト					
11回							
12回							
13回							
14回							
15回							
16回							
17回							
18回							
備考							

令和2年度 鉄道システム学科

科目名	安全輸送Ⅱ	学年	2	学期	前期後半	担当教員名	市場
実施日	月・火	実施時間	月－1,2 火－1,2				
授業の概要	安全を確保する仕組み、規程及び異常時での対応方を学び、安全最優先の”考動”とは何かを知る。						
授業の方法	各テーマに沿った講義及び配布資料への講義内容の記入又はグループワークによる討議。						
到達目標	安全を確保する仕組み、異常時における対処方を学び、鉄道員とそんな色のない”考動”力を得る。						
評価基準	期末試験…90点、平常点(レジュメへの記載、感想文、小テストの点数)…10点						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	特になし。						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	テスト解説	前期中間試験の解説					
2回	合図 ①	各合図の意味と表示方の説明					
3回	合図 ②	各合図の意味と表示方の説明					
4回	標識 ①	各標識の意味の表示方の説明					
5回	標識 ②	各標識の意味の表示方の説明					
6回	標識 ③	各標識の意味の表示方の説明					
7回	標識 ④	各標識の意味の表示方の説明					
8回	標識 ⑤	各標識の意味の表示方の説明					
9回	閉そく一般	自動閉そく式、代用閉そく式について					
10回	通信式の取扱い	通信式の取扱いについて					
11回	実習 通信式	グループワーク 通信式取扱い実践					
12回	指令式・閉そく指示運転	指令式の取扱い。閉そく指示運転とその危険性について					
13回	指導式の取扱い	指導式の取扱いについて					
14回	実習 指導式	グループワーク 指導式取扱い実践					
15回	代用閉そくの注意点	代用閉そく取扱い時の注意点とリスクについて					
16回	小テスト	前期期末試験までの出題範囲を復習					
17回							
18回							
備考							

令和2年度 鉄道システム学科

科目名	鉄道車両－Ⅰ	学年	1	学期	前期	担当教員名	北川
実施日	水曜日	実施時間	第3・4限				
授業の概要	鉄道システム(鉄道車両を主に、運転も加えて)の知識を得る事を目的とする。(小職の経験も話します。)						
授業の方法	主に教材内容についての説明を板書、写真、映像により説明します。追加で資料を配布して説明します。						
到達目標	周りの人にそれらの技術について聞かれた時に答えられるようになる。						
評価基準	期末試験90点、平常点10点(平常点は授業態度)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	わかりやすい鉄道技術【鉄道概論・車両編・運転編】を主として使用。追加でこちらで資料準備します。						
授業計画							
回 数	項 目	内 容					
1回	鉄道と環境(エコ)・電化方式	鉄道がどれだけ環境にやさしいかを知る。直流・交流の電化方式を知る。					
2回	鉄道システムの構成要素	軌間・レールと鉄車輪の特徴を知る。建築限界・車両限界を知る。					
3回	鉄道車両を動かす動力	日本の電力周波数と鉄道で使用される電圧と世界の電圧も知る。					
4回	気動車と電車の違い・軌道回路	気動車と電車の長所・短所を知る。安全に最重要の軌道回路を知る。					
5回	駅業務・車両の保守	駅の運転業務を知る。車両の定期的な検査修繕周期と内容を知る。					
6回	鉄道に関する法体系	鉄道事業法・鉄道事業者の第1種・2種・3種の内容を知る。					
7回	車両形式と車両の走る仕組み	運転される車両形式の呼び方を知る。粘着力・空転・動力伝達方式を知る。					
8回	車両の種類と特徴	電化方式(直流・交流)と運転される車両形式を知る。					
9回	電車用主電動機	電車用主電動機の種類(直流主電動機・交流主電動機)の構造と働きを知る。					
10回	電車の制御方法	電車が運転可能となるための3条件を知る。抵抗制御とVVVF制御を知る。					
11回	気動車の制御方法	気動車のエンジンとトルクコンバータ・ハイブリッド方式を知る。					
12回	電車の台車方式	電車の台車の揺れ枕方式・構造とボルスタレス方式を知る。					
13回	輪軸と台車の付属機器	車輪の形状と理由・台車枠に付加される、空気バネ・軸受け等を知る。					
14回	空気バネとオイルダンパー	空気バネの変遷と構造・働き、オイルダンパーの働き・構造をしる。					
15回	鉄道車両のブレーキ	自動空気ブレーキ、電気指令式ブレーキと貫通ブレーキの意味と働きを知る。					
16回	脱線係数	台車だ行動とだ行動防止方法・脱線係数の意味を知る。					
17回	運転保安装置	ATS・ATC・ATOの違いと導入されている車種を知る。					
18回							
備考							

令和2年度 鉄道システム学科

科目名	鉄道車両Ⅱ	学年	2	学期	前期	担当教員名	北川
実施日	水曜日	実施時間	第5・6限				
授業の概要	鉄道車両Ⅰで取得した車両システムの具体的内容と、具体的な運転の概要を理解してもらう。						
授業の方法	主に資料を配布して、板書、写真、映像により説明します。副教材として教科書も使用します。						
到達目標	周りの人にそれらの技術について聞かれた時に答えられるようになる。						
評価基準	期末試験90点、平常点10点(平常点は授業態度)						
評価方法	90点以上を5、76点以上を4、56点以上を3、50点以上を2とし、50点未満は1とする。(1は欠点)						
使用教科書	こちらで資料準備します。副教材として、「わかりやすい鉄道技術【鉄道概論・車両編・運転編】」を使用。」						
授業計画							
回数	項目	内 容					
1回	鉄道システムの振り返り	動力源(石炭・重油・電力)と効率・車両形式を振り返る。					
2回	制御方式・ブレーキ方式	抵抗制御方式・VVVF制御方式、とブレーキ方式の違いを復習					
3回	交直流車両	681系交直流車両の電気機器と働きを知る。					
4回	直流近郊113系車両	抵抗制御方式の113系近郊形電車の機器と働きを知る。					
5回	主回路機器	パンタグラフ、遮断器の構造と動作・働きを知る。					
6回	主制御器	速度調整を行うための主制御器の構造・働きを知る。					
7回	主電動機	直流主電動機、誘導電動機の構造・働き・動作原理を知る。					
8回	空気圧縮機・補助電源	空気圧縮機の構造・動作原理、サービス用電源装置の目的・動作を知る。					
9回	車両用電気ツナギ記号	車両用電気ツナギ図面記載の記号・シンボルマークの意味と働きについて知る。					
10回	113系補助回路・冷房装置	在来線車両用冷房装置の構造・動作原理、新幹線車両の冷暖房装置を知る。					
11回	貫通ブレーキ装置	ブレーキ装置の発達歴史、車両として備えなければならない貫通ブレーキを知る。					
12回	保安ブレーキ装置	保安ブレーキ装置取り付けの原点となった富士急事故と経緯を知る。					
13回	電気指令式ブレーキ装置	電気指令式ブレーキ装置の機器と構造・動作原理、貫通ブレーキを知る。					
14回	戸閉機械・連結器	戸閉機械の発達・最近の戸閉機械の動作・原理を知る。					
15回	連結器	連結装置の発達と大正14年の一斉取替・連結器の動作・原理を知る。					
16回	台車	電車用台車の種類・構造詳細を知る。車体と台車の振動と乗り心地係数を知る。					
17回	戸閉制御	側開き戸制御方法を具体的ツナギ図で知る。					
18回							
備考							

理事 名簿

役職	氏名	任期	備考
理事長	田畑 利彦	令和3年12月25日	
(1号) 理事	鞍野 貴幸	令和3年12月25日	
(2号) 理事	菊池 秀武	令和3年12月25日	学外者
(2号) 理事	李 昭国	令和3年12月25日	学外者
(3号) 理事	平 拓也	令和3年12月25日	学外者
(3号) 理事	濱本 忍	令和3年12月25日	学外者

令和元年度

客観的な指標の算出方法					
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する（100点満点で点数化）					
学科名	自動車整備工学科	学年・学期	1・1	学生数	61
成績の分布					
指標の数値	～49点	50～55点	56～75点	76～89点	90～100点
人数	2	5	33	18	3
下位1/4に該当する人数		15 人			
下位1/4に該当する指標の数値		61 点以下			

学科名	自動車整備工学科	学年・学期	1・2	学生数	57
成績の分布					
指標の数値	～49点	50～55点	56～75点	76～89点	90～100点
人数	0	4	39	11	3
下位1/4に該当する人数		14 人			
下位1/4に該当する指標の数値		60 点以下			

学科名	自動車整備工学科	学年・学期	1・3	学生数	56
成績の分布					
指標の数値	～49点	50～55点	56～75点	76～89点	90～100点
人数	0	8	31	13	4
下位1/4に該当する人数		14 人			
下位1/4に該当する指標の数値		60 点以下			

令和元年度

客観的な指標の算出方法					
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する（100点満点で点数化）					
学科名	自動車整備工学科	学年・学期	2・1	学生数	61
成績の分布					
指標の数値	～49点	50～55点	56～75点	76～89点	90～100点
人数	0	10	34	16	1
下位1/4に該当する人数		15 人			
下位1/4に該当する指標の数値		59 点以下			

学科名	自動車整備工学科	学年・学期	2・2	学生数	61
成績の分布					
指標の数値	～49点	50～55点	56～75点	76～89点	90～100点
人数	0	12	37	11	1
下位1/4に該当する人数		15 人			
下位1/4に該当する指標の数値		56 点以下			

学科名	自動車整備工学科	学年・学期	2・3	学生数	61
成績の分布					
指標の数値	～49点	50～55点	56～75点	76～89点	90～100点
人数	0	0	0	1	60
下位1/4に該当する人数		15 人			
下位1/4に該当する指標の数値		98 点以下			

令和元年度

客観的な指標の算出方法					
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する（100点満点で点数化）					
学科名	二輪整備工学科	学年・学期	1・1	学生数	9
成績の分布					
指標の数値	～49点	50～55点	56～75点	76～89点	90～100点
人数	0	0	6	3	0
下位1/4に該当する人数		2 人			
下位1/4に該当する指標の数値		68 点以下			

学科名	二輪整備工学科	学年・学期	1・2	学生数	9
成績の分布					
指標の数値	～49点	50～55点	56～75点	76～89点	90～100点
人数	0	0	7	2	0
下位1/4に該当する人数		2 人			
下位1/4に該当する指標の数値		65 点以下			

学科名	二輪整備工学科	学年・学期	1・3	学生数	9
成績の分布					
指標の数値	～49点	50～55点	56～75点	76～89点	90～100点
人数	0	0	5	4	0
下位1/4に該当する人数		2 人			
下位1/4に該当する指標の数値		63 点以下			

令和元年度

客観的な指標の算出方法					
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する（100点満点で点数化）					
学科名	二輪整備工学科	学年・学期	2・1	学生数	10
成績の分布					
指標の数値	～49点	50～55点	56～75点	76～89点	90～100点
人数	0	2	8	0	0
下位1/4に該当する人数		3 人			
下位1/4に該当する指標の数値		59 点以下			

学科名	二輪整備工学科	学年・学期	2・2	学生数	10
成績の分布					
指標の数値	～49点	50～55点	56～75点	76～89点	90～100点
人数	0	1	7	2	0
下位1/4に該当する人数		3 人			
下位1/4に該当する指標の数値		58 点以下			

学科名	二輪整備工学科	学年・学期	2・3	学生数	10
成績の分布					
指標の数値	～49点	50～55点	56～75点	76～89点	90～100点
人数	0	0	0	0	10
下位1/4に該当する人数		3 人			
下位1/4に該当する指標の数値		98 点以下			

令和元年度

客観的な指標の算出方法

履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する（100点満点で点数化）

学科名	鉄道システム学科	学年・学期	1・前期	学生数	26
成績の分布					
指標の数値	～49点	50～55点	56～75点	76～89点	90～100点
人数	0	0	9	15	2
下位1/4に該当する人数		7 人			
下位1/4に該当する指標の数値		74 点以下			

学科名	鉄道システム学科	学年・学期	1・後期	学生数	26
成績の分布					
指標の数値	～49点	50～55点	56～75点	76～89点	90～100点
人数	0	0	14	10	2
下位1/4に該当する人数		7 人			
下位1/4に該当する指標の数値		70 点以下			

令和元年度

客観的な指標の算出方法					
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する（100点満点で点数化）					
学科名	鉄道システム学科	学年・学期	2・前期	学生数	23
指標の数値	～49点	50～55点	56～75点	76～89点	90～100点
人数	0	0	7	14	2
下位1/4に該当する人数		6 人			
下位1/4に該当する指標の数値		74 点以下			

学科名	鉄道システム学科	学年・学期	2・後期	学生数	23
成績の分布					
指標の数値	～49点	50～55点	56～75点	76～89点	90～100点
人数	0	0	7	10	6
下位1/4に該当する人数		6 人			
下位1/4に該当する指標の数値		74 点以下			

資金収支計算書（収入の部）

法人等名
学校法人 兵庫科学技術学園

（平成31年4月1日～令和2年3月31日 単位：円）

区 分	000	Y00	(※学校名を記入) 阪神自動車航空鉄 道専門学校	(※学校名を記入)
	総 計	学校法人部門		
a 学生生徒等納付金収入	213 713 950		213 713 950	
内 訳	(1) 授業料収入	94 500 000	94 500 000	
	(2) 入学金収入	10 670 000	10 670 000	
	(3) 施設設備資金収入	38 647 450	38 647 450	
	(4) その他 ((1)(2)(3)以外の収入)	69 896 500	69 896 500	
b 手数料収入	2 736 800		2 736 800	
内 訳	(1) 入学検定料収入	2 620 000	2 620 000	
	(2) その他((1)以外の収入)	116 800	116 800	
c 寄付金収入	0		0	
d 補助金収入	2 842 544		2 842 544	
内 訳	(1) 国庫補助金収入			
	(2) 地方公共団体補助金収入 (うち学費負担軽減目的補助金)	2 842 544	2 842 544	
	(3) 施設型給付費収入			
e 資産売却収入				
f 付随事業・収益事業収入	6 315 831		6 315 831	
g 受取利息・配当金収入	380		380	
h 雑収入	230 873		230 873	
i 借入金等収入	33 000 000		33 000 000	
内 訳	(1) 長期借入金収入	33 000 000	33 000 000	
	(2) 短期借入金収入			
	(3) 学校債収入			
j 計	258 840 378		258 840 378	
k 前受金収入	90 717 000			
l その他の収入	86 860 354			
m 資金収入調整勘定	△ 97 959 500			
n 前年度繰越支払資金	96 231 918			
収入の部合計 (A)	434 690 150			

--	--

資金収支計算書（支出の部）

法人等名
学校法人 兵庫科学技術学園

(平成31年4月1日～令和2年3月31日 単位:円)

区 分	000	Y00	(※学校名を記入)	(※学校名を記入)
	総 計	学校法人部門	阪神自動車航空鉄 道専門学校	
a 人件費支出	125 576 016		125 576 016	
内 訳	(1) 教員人件費支出	84 969 988	84 969 988	
	内 本 務 教 員	75 659 148	75 659 148	
	(うち所定福利費)	9 096 815	9 096 815	
	兼 務 教 員	9 310 840	9 310 840	
	(2) 職員人件費支出	39 313 635	39 313 635	
	内 本 務 職 員	39 313 635	39 313 635	
	(うち所定福利費)	4 711 600	4 711 600	
	兼 務 職 員			
	(3) 役員報酬支出			
	(4) 退職金支出	246 500	246 500	
	(5) その他 ((1)(2)(3)(4)以外の支出)	1 045 893	1 045 893	
b 教育研究(管理)経費支出	62 240 165		62 240 165	
c 借入金等利息支出	9 318 883		9 318 883	
d 借入金等返済支出	84 279 000		84 279 000	
e 施設関係支出	2 580 000		2 580 000	
内 訳	(1) 土地支出			
	(2) 建物支出	2 580 000	2 580 000	
	(3) 構築物支出			
	(4) その他 ((1)(2)(3)以外の支出)			
f 設備関係支出	1 052 714		1 052 714	
内 訳	(1) 教育研究用機器備品支出	1 052 714	1 052 714	
	(2) 図書支出			
	(3) その他 ((1)(2)以外の支出)			
g 計	285 046 778		285 046 778	
h 資産運用支出				
i その他の支出	81 582 664			
j 資金支出調整勘定				
k 翌年度繰越支払資金	68 060 708			
支出の部合計 (A)	434 690 150			
収 支 差 額 (その他の法人・個人のみ)				

--	--

事業活動収支計算書

学校法人名
学校法人 兵庫科学技術学園

(平成31年4月1日～令和2年3月31日 単位:円)

区 分		000 総 計	Y00 学校法人部門	(※学校名を記入) 阪神自動車航空鉄 道専門学校	(※学校名を記入)
教育活動収支	収入の部				
	(1) 学生生徒等納付金	213 713 950		213 713 950	
	(2) 手数料	2 736 800		2 736 800	
	(3) 寄付金	0		0	
	(4) 経常費等補助金	2 842 544		2 842 544	
	(5) 付随事業収入	1 136 090		1 136 090	
	(6) 雑収入	230 873		230 873	
	a 教育活動収入計	220 660 257		220 660 257	
	支出の部				
	(1) 人件費	125 576 016		125 576 016	
	(2) 教育研究(管理)経費	106 258 615		106 258 615	
	(うち減価償却額)	44 018 450		44 018 450	
	(3) 徴収不能額等				
	b 教育活動支出計	231 834 631		231 834 631	
	c 教育活動収支差額 (a 教育活動収入計 - b 教育活動支出計)	△ 11 174 374		△ 11 174 374	
教育活動外収支	収入の部				
	(1) 受取利息・配当金	380		380	
	(2) その他の教育活動外収入	5 179 741		5 179 741	
	d 教育活動外収入計	5 180 121		5 180 121	
	支出の部				
	(1) 借入金等利息	9 318 883		9 318 883	
	(2) その他の教育活動外支出				
	e 教育活動外支出計	9 318 883		9 318 883	
	f 教育活動外収支差額 (d 教育活動外収入計 - e 教育活動外支出)	△ 4 138 762		△ 4 138 762	
特別収支	収入の部				
	(1) 資産売却差額				
	(2) その他の特別収入				
	(うち寄付金)				
	(うち補助金)				
	g 特別収入計			0	
	支出の部				
	(1) 資産処分差額				
	(2) その他の特別支出	42 060		42 060	
	h 特別支出計	42 060		42 060	
	i 特別収支差額 (g 特別収入計 - h 特別支出計)	△ 42 060		△ 42 060	
j 基本金組入前当年度収支差額 (c + f + i)		△ 15 355 196		△ 15 355 196	
k 基本金組入額合計					
l 当年度収支差額 (j + k)		△ 15 355 196		△ 15 355 196	
m 前年度繰越収支差額		△ 1 176 577 105			
n 基本金取崩額					
o 翌年度繰越収支差額 (l + m + n)		△ 1 191 932 301			

貸 借 対 照 表

学 校 法 人 名
学校法人 兵庫科学技術学園

(令和2年3月31日現在 単位:円)

資 産 の 部			負債・純資産(基本金及び繰越収支差額)の部	
科 目		金 額	科 目	金 額
固 定 資 産 (a)		992 413 255	固 定 負 債 (c)	577 612 000
内 訳	有 形 固 定 資 産	992 335 255	(1) 長期借入金	577 612 000
	(1) 土 地	188 812 184	(2) 学校債	
	(2) 建 物	787 521 136	(3) 長期未払金	
	(3) 構 築 物		(4) 退職給与引当金	
	(4) 教育研究用機器備品	12 431 590	(5) その他 ((1)(2)(3)(4)以外の固定負債)	
	(5) その他 ((1)(2)(3)(4)以外の有形固定資産)	3 570 345	流 動 負 債 (d)	161 569 103
	特 定 資 産		(1) 短期借入金	
	(1) 退職給与引当特定資産		(2) 一年以内償還予定学校債	
	(2) その他 ((1)以外の特定資産)		(3) 手形債務	
	そ の 他 の 固 定 資 産	78 000	(4) 未払金	500 000
	(1) 有価証券		(5) 前受金	90 717 000
	(2) 収益事業元入金		(6) その他 ((1)(2)(3)(4)(5)以外の流動負債)	70 352 103
	(3) 長期貸付金		負 債 計 (e) (固定負債(c)+流動負債(d))	739 181 103
	(4) その他 ((1)(2)(3)以外のその他の固定資産)	78 000	基 本 金 (f)	1 519 579 720
流 動 資 産 (b)		74 415 267	(1) 第1号基本金	1 066 656 000
内 訳	(1) 現金預金	68 060 708	(2) 第2号基本金	452 923 720
	(2) 未収入金		(3) 第3号基本金	
	(3) 短期貸付金		(4) 第4号基本金	
	(4) 有価証券		繰 越 収 支 差 額 (g)	△1 191 932 301
	(5) その他 ((1)(2)(3)(4)以外の流動資産)	6 354 559	翌年度繰越収支差額	△1 191 932 301
合 計 (B) 固定資産(a)+流動資産(b)		1 066 828 522	合 計 (B) 負債計(e)+基本金(f)+繰越収支差額(g)	1 066 828 522

※純資産の部の合計は、基本金(f)と繰越収支差額(g)の合計のため、省略しています。

--	--

財産目録

令和 2年 3月31日 現在

(単位 円)

科 目		評価価格
有形 固定 資産	土 地	188,812,184
	建 物	787,521,136
	構 築 物	0
	教育研究用機器備品	12,431,590
	管理用機器備品	2,851,540
	図 書	718,805
	車 両	0
	計	992,335,255
その他の 固定資産	電 話 加 入 権	0
	差 入 保 証 金	78,000
	出 資 金	0
	ソ フ ト ウ ェ ア	0
	計	78,000
合 計		992,413,255

令和元年度 事業報告書

平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日

学校法人 兵庫科学技術学園

I 法人の概要

1. 教育理念・目的・育成人材像

本学では、以下の教育理念、教育目標を掲げ、人材育成を行っている。

【教育理念】

日々の研鑽を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが充実した豊かな人生の実現を目指す。

【目的】

創造性や先見性があり、地域・業界から信頼される学校を目指す。

【育成人材像】

自主・創造の精神に溢れ、逆境を跳ね返す心身ともにたくましい学生の育成。

2. 学校法人の沿革

平成元年 3 月	尼崎市に学校法人兵庫科学技術学園 兵庫科学技術専門学校 設立（兵庫県知事認可）
平成元年 9 月	自動車整備士 1 種養成施設指定
平成 19 年 4 月	阪神自動車航空鉄道専門学校に校名変更
平成 29 年 4 月	尼崎市より神戸市長田区に校舎移転

3. 設置する学校・学科等

●阪神自動車航空鉄道専門学校

●阪神自動車航空鉄道専門学校 日本語別科

○工業専門課程

（日本語学校）

- ・自動車整備工学科 昼間部 2 年制
- ・二輪整備工学科 昼間部 2 年制
- ・鉄道システム学科 昼間部 2 部制

4. 学生数の状況（平成 31 年 5 月 1 日現在）

学科	修業年限	入学定員	収容定員	現員	備考
自動車整備工学科	2 年	75 名	150 名	126 名	
二輪整備工学科	2 年	25 名	50 名	19 名	
鉄道システム学科	2 年	40 名	80 名	52 名	
合 計		140 名	280 名	197 名	

日本語別科

	収容定員	現員	備考
進学 2 年コース (4 月入学)	40 名	31 名	令和元年 5 月 1 日現在
進学 1 年 9 か月年コース (10 月入学)	40 名	8 名	令和元年 11 月 1 日現在

5. 役員の概要（令和元年度）

定員数 理事 6 名、監事 2 名、評議員 13 名

区 分	氏 名	任期	区分	氏名	任期
理事長	田畑 利彦	令和 3 年 12 月 25 日	(3 号) 理事	平 拓也	令和 3 年 12 月 25 日
(1 号) 理事	鞍野 貴幸	令和 3 年 12 月 25 日	(3 号) 理事	濱本 忍	令和 3 年 12 月 25 日
(2 号) 理事	菊地 秀武	令和 3 年 12 月 25 日	監事	岡本 眞一	令和 3 年 12 月 25 日
(2 号) 理事	藤堂 高明	令和 3 年 12 月 25 日	監事	山本 浩章	令和 3 年 12 月 25 日

6. 評議員の概要（令和元年度）

定員数 13 名

区 分	氏 名	任期	区 分	氏名	任期
評議員	田畑 利彦	令和 3 年 12 月 25 日	評議員	庄司 成	令和 3 年 9 月 19 日
評議員	鞍野 貴幸	令和 3 年 12 月 25 日	評議員	小野 俊一郎	令和 3 年 9 月 19 日
評議員	菊地 秀武	令和 3 年 12 月 25 日	評議員	城田 豊靖	令和 3 年 9 月 19 日
評議員	藤堂 高明	令和 3 年 12 月 25 日	評議員	山本 桜司	令和 3 年 9 月 19 日
評議員	平 拓也	令和 3 年 12 月 25 日	評議員	有安 努	令和 3 年 9 月 19 日
評議員	濱本 忍	令和 3 年 12 月 25 日	評議員	片岡 伊佐夫	令和 3 年 9 月 19 日
			評議員	大賀 正信	令和 3 年 9 月 19 日

7. 教職員の概要（令和元年度）

教員		職員	合計
専任	非常勤		
15 名	13 名	10 名	38 名

Ⅱ 事業の概要

1. 事業の概要

(1) 学生募集

令和元年度の学生募集（平成 31 年 4 月入学者数）は、本科は 103 名（前年比 100%）で、昨年度と同数の結果となった。また、日本語別科の募集を平成 30 年度入学生より募集を再開し、39 名在籍（令和元年 11 月現在）している。今後も様々な取り組みを行い、短期・中期・長期的な視点で、広報サイクルの展開を図っていく。

(2) 教育

定期的に在校生に学校や教員の評価を記入するアンケートを実施し、学校全体や各教員の改善に役立てている。徳育教育にも力を入れており、挨拶の仕方、近隣の清掃や除草等を実施。また、GLION グループや日産、マツダ等、企業との連携授業も充実。学生満足度向上のため、さらに学校生活や教育方法の改善に取り組むこととする。

(3) 就職

令和元年度の就職内定率は、自動車整備工学科 100%、二輪整備工学科 100%、鉄道システム学科 100%、全員内定の結果であった。この状態を維持するとともに、第一希望への就職内定者増加、各企業へより良い人材の輩出に取り組むことが重要である。

(4) 組織体制

私学経営を取り巻く厳しい環境に対応していくため、組織力を強化し、各個人が経費に意識を向ける取り組みが必要である。予算を厳格に管理し財務基盤の強化を図ることが重要である。

2. 主な事業の進捗状況

(1) 職業実践専門課程

文部科学省が平成 26 年 4 月に導入した専修学校の専門課程（学科）を対象とした新しい認定制度で、「専修学校の専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的」にこの制度が導入された。本学は、自動車整備工学科が認定を受けており、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を運営している。

(2) 国家試験対策の取り組み

自動車整備工学科及び二輪整備工学科では、国土交通省認可の学科であり、卒業と同時に実務経験が必要な国家 2 級自動車整備士の受験資格が取得できる。今年度の取得状況は下表の通りである。次年度以降、合格率 100%を目指し、対策の取り組みを強化する。

資格名	学科名		全国平均
	自動車整備工学科	二輪整備工学科	
2 級ガソリン 自動車整備士	96.7% (59 名/61 名)	100% (10 名/10 名)	84.1%
2 級ジーゼル 自動車整備士	96.7% (59 名/61 名)		90.0%
3 級二輪 自動車整備士		100% (10 名/10 名)	68.7%

3. 施設等の状況（令和 2 年 3 月 31 日現在）

阪神自動車航空鉄道専門学校（神戸市長田区）

校地 20,815 m²

校舎 12,289 m²

阪神自動車航空鉄道専門学校 自己評価報告書 (令和元年度)

令和2年6月作成

目次（評価項目一覧）

1. 教育理念・目的・育成人材像等

2. 学校運営

3. 教育活動

4. 教育成果

5. 学生支援

6. 教育環境

7. 学生の募集と受け入れ

8. 財務

9. 法令等の遵守

10. 社会貢献・地域貢献

1. 教育理念・目的・育成人材像等

自己採点

5. 完璧 4. かなり進んでいる 3. 普通 2. やや足りない 1. ほとんど進んでいない NA. 当てはまらない

評価項目	平成30年度 評価
学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	3
理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	3
理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	3
理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	3
学校の特色として挙げられるものがあるか	4
学校の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	3

●現状

- ・ 当校では以下の教育理念、教育目標を掲げ、人材育成を行っている。

【教育理念】

日々の研鑽を通じ、社会からの期待に応え一人ひとりが充実した豊かな人生の実現を目指す。

【目的】

創造性や先見性があり、地域・業界から信頼される学校を目指す。

【育成人材像】

自主・創造の精神に溢れ、逆境を跳ね返す心身ともにたくましい学生の育成。

- ・ 専門学校の場合、時代の変化に伴い、その変化に対応するために理念目的について適宜見直しが必要である。
- ・ 学校の特色としては、優秀な自動車整備士を育成し、自動車業界で貢献することである。
- ・ 国土交通省の認可学科であるため、卒業時には2級自動車整備士資格の受験資格が取得でき、実技試験も免除される。

2. 学校運営

自己採点

5. 完璧 4. かなり進んでいる 3. 普通 2. やや足りない 1. ほとんど進んでいない NA. 当てはまらない

評価項目	平成30年度 評価
学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか	3
学校運営方針はきちんと教職員に明示され、伝わっているか	3
学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか	3
学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか	2
学校は事業計画に沿って運営されているか	2
運営組織図はあるか	5
運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか	3
組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	3
学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	3
人事考課制度は整備されているか	3
昇進・昇格制度は整備されているか	2
賃金制度は整備されているか	3
採用制度は整備されているか	3
教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	3
意思決定システムは確立されているか	3
意思決定プロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか	3
意思決定の階層・権限等は明確か、学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	3
業務効率化を図る情報システム化がなされているか	3

●現状

- ・ 理事会、教職員会議、朝礼を実施している。
- ・ 理事長がビジョン、使命などを策定し、理事会で決定している。
- ・ 全ての教職員に、ほぼ運営方針は伝わっている。
- ・ 職務と責任については、各教職員が把握している。
- ・ 明確な基準は、国土交通省の規定による有資格者を採用している。
- ・ 必要な教職員数を把握し、退職者が出る場合は事前採用を行い一定数を保っている。
- ・ 理事長の意思決定は、理事会と教職員会議を通じ浸透されている。
- ・ 意思決定の階層、権限は明確化されている。
- ・ 不備があった規程については整備し、他の規程についても見直しを行っている。
- ・ 教育研修実施後、研修内容を他の教員とも共有する取り組みを行っている。
- ・ 業界レベルに十分対応できる、専門性を持ち合わせている。
- ・ 学校独自での実施若しくは業界団体主催の実技セミナーに参加している。
- ・ 各学期末考査を行い、成績評価を行っている。

- ・授業アンケートをもとにカリキュラムを練り直し、新たな授業展開、個別指導等、具体的な問題点の改善に努めている。
- ・本校独自のカリキュラムの設定として、各ディーラー、メーカーの協力を得て、実体験研修を増やしている。
- ・1級自動車整備士資格取得等、資格手当を実施している。

●課題と改善策

- ・就業規則、諸規定の見直しを検討中。
- ・人事考課制度の計画実施に向け現在構築中である。

3. 教育活動

自己採点

5. 完璧4. かなり進んでいる3. 普通2. やや足りない1. ほとんど進んでいないNA. 当てはまらない

評価項目	平成30年度 評価
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	5
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか	4
学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	4
カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	3
カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	3
カリキュラムを定期的に見直しているか	3
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	4
各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	4
各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	4
学生による授業評価を実施しているか	5
授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	3
学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	4
教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	4
教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	4
教員の専門性を向上させる研修を行っているか	4
教員の教授力（インストラクションスキル）を適宜把握し、評価しているか	4
教員の教授力（インストラクションスキル）を向上させる研修を行っているか	3
教員間（非常勤講師も含めて）で適切に協業しているか	4
非常勤講師間で適切に協業しているか	NA
非常勤講師の採用基準は明確か	NA
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5
目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	5
目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	5

●現状

- ・最新技術を学ぶため、各メーカーの技術講習会を実施している。
- ・教育目標、育成人材像は業界のニーズに合致している。毎年就職先の企業に、業界のニーズをヒアリングし、合致するようにしている。
- ・学科のカリキュラムは、毎年確認研鑽しており、目標達成に十分な内容であり、体系的に編成されている。
- ・業界に求められる人材に育成すべく業界団体の意見をヒアリングし、反映している。
- ・教育プログラムは、国土交通省に定められた規程科目として位置づけられている。
- ・目的、授業内容の分かるシラバスを作成し、到達レベルの目標を設定している。
- ・国土交通省の規定により、教員を確保している。
- ・業界レベルに十分対応できる、専門性を持ち合わせている。
- ・採用時、現状の専門性を把握し、評価している。
- ・学校独自での実施もしくは業界団体主催の実技セミナーに参加している。
- ・教員のインストラクションスキルは把握しているが、評価できていない。
- ・年に1回学内で教員研修を実施。それ以外に学外の研修を受講しスキルを向上している。
- ・期末考査を行い、成績評価を行っている。
- ・資格取得に必要な教育内容になっている。
- ・学期末毎に学生による授業アンケートを実施し、問題点は改善するように校長による教員面談を実施している。
- ・シラバスを作成している。

●課題と改善策

- ・学生に夢を持たせる教育が必要である。
- ・学校長、学科長による教員の授業見学を実施。教員の適否についての評価を行う必要がある。
- ・技術力向上のための研修や教員研修の参加が必要である。
- ・人事考課と共に、教授力を評価対象に検討する。
- ・国土交通省の基準だけでなく、授業スキルの高さを判断材料にする為の授業スキルの標準化が必要である。

4. 教育成果

●自己採点

5. 完璧4. かなり進んでいる3. 普通2. やや足りない1. ほとんど進んでいないNA. 当てはまらない

評価項目	平成30年度 評価
就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	5
就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	4
資格取得率の向上が図られているか	4
資格取得者数とその推移に関する情報を確に把握しているか	4
退学率の低減が図られているか	3
入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	3
卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	3
卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	3

●現状

- ・就職率 100%達成している。
- ・就職成果とその推移に関する情報を適切に把握している。
- ・非常に高い合格率で資格取得している。
- ・国家資格、検定合格者数は正確に把握している。
- ・校長が直接指導にあたり、担任に退学率を5%に抑えるように指導している。
- ・入退学者数の推移は把握している。
- ・就職活動前より、ビジネスマナー研修を講師に依頼し、就職活動の時だけではなく社会人に向けての取り組みを行っている。
- ・就職先を短期で退職する卒業生が存在するので、卒業後(5年)の退職者にも進路指導部で就職斡旋する旨の呼びかけをする。

●課題と改善策

- ・第一志望就職率100%を目指す。
- ・卒業生の社会的活躍の把握が必要。
- ・就職先の追跡調査の実施が必要である。
- ・卒業生について十分に把握していないため、OB会や他の方策を通じ、方法を模索中。

5. 学生支援

●自己採点

5. 完璧4. かなり進んでいる3. 普通2. やや足りない1. ほとんど進んでいないNA. 当てはまらない

評価項目	平成30年度 評価
学生の就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
就職に関する説明会を実施しているか	4
就職に関する学生個別相談を実施しているか	5
就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか	5
学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
学生相談室を開設しているか	2
学生からの相談に応じる専用カウンセラーがいるか	2
留学生に対する学生相談体制は整備され、有効に機能しているか	3
学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	3
奨学金制度が整備され、有効に機能しているか	3
学費の分納制度等、学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能しているか	3
定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	3
学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	2
学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	2
スポーツ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	2
遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3→4
同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	1
卒業生をフォローアップする体制が整備され、有効に機能しているか	2

●現状

- ・学生への就職・進学指導に関する掲示、PCでの閲覧が可能である。
- ・企業担当者による校内企業説明会を毎年実施している。
- ・個別相談を実施している。
- ・担任が学生相談に応じている。
- ・保護者懇談会を毎年秋に実施している。
- ・就職の具体的活動に関する指導を実施している。
- ・卒業生においての相談窓口の機能を果たしている。
- ・留学生に関して、日本語教師のサポートを手厚くし、生活指導・相談を行っている。
- ・日本学生機構の奨学金が利用可能。ほぼ有効に機能している。

- ・毎年健康診断を行っている。
- ・クラブ活動は行っていない。
- ・学生寮は設置していないが、遠隔地出身者のために、不動産業者の紹介を行っている。
- ・学費の支払方法は、前後期規制2分割払。また、2分割以上の分納制度も対応しており、特に奨学金が原資の場合柔軟に対応している。

●取組と結果

- ・初めて、授業参観を実施した。反省点を改善しつつ、引き続き実施予定。

●課題と改善策

- ・同窓会の名簿を整理して、OB会リスト、総会等連携を深める必要がある。
- ・卒業生を対象とした求人について情報を提供する場がないので、今後提供する場を 作って
いきたい。

6. 教育環境

●自己採点

5. 完璧4. かなり進んでいる3. 普通2. やや足りない1. ほとんど進んでいないNA. 当てはまらない

評価項目	平成30年度 評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
施設・設備のメンテナンス体制が整備され、有効に機能しているか	3
施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	3
学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	3
学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	3
防災に対する体制は整備され、有効に機能しているか	4
災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	3
実習時等の事故防止の体制は十分か	3
万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	3
防災訓練を実施しているか	4

●現状

- ・学外実習（インターンシップ研修）を企業と連携し実施。
- ・防災に対する体制は整備され機能している。
- ・危険箇所の把握、点検、施錠をしている。
- ・自衛消防隊を組織、年1回防災訓練を行っている。
- ・実習時等の事故防止に努めている。
- ・災害についての保険に加入している。
- ・新校舎に移転し、旧校舎では確保できなかった、整備の現場で役立つ、洗車・オイル交換・点検整備が出来る設備を確保。学生数に対して、十分な設備を設置した。
- ・AEDを3台設置している。
- ・教職員を対象に、長田消防署による、心肺蘇生実務やAED取扱実務等の救命士講習を受講した。

●課題と改善策

- ・南海トラフ地震防災規程の具体的な行動基準を定めた災害対応マニュアルを作成する必要がある。
- ・非常食や水、非常時に必要な備品について備蓄、備蓄倉庫を準備する必要がある。

7. 学生の募集と受け入れ

●自己採点

5. 完璧4. かなり進んでいる3. 普通2. やや足りない1. ほとんど進んでいないNA. 当てはまらない

評価項目	平成30年度 評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか	4
志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	4
募集定員を満たす募集活動となっているか	3
学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか	3
卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか	3
入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3
入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	4
学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか	4
学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	4

●現状

- ・資料請求者への資料送付、オープンキャンパス、入学説明会、高校訪問等により計画的に行っている。
- ・育成人材像を明示し、志願者、保護者の知りたい情報を掲載し、分かりやすく記載している。
- ・Eメール、インターネットからの問い合わせフォーム、電話での対応を行っている。
- ・資格取得率、就職率は正確に伝えられている。卒業生の活躍は全て把握できていないが、分かる範囲で伝えている。
- ・就職率や国家資格合格率など募集に貢献した実数を把握している。
- ・入学選考は、学内で定めた面接項目、基準に従って公平に行っている。
- ・出願者数、入学者数を正確に数字を把握している。出願数、入学者数を毎年分析している。
- ・学納金は本校の教育内容において妥当である。
- ・毎年、学科毎の学納金の収支については正確に把握している。

●課題と改善策

- ・同窓会活動を活発にし、卒業後の活躍を把握する必要がある。
- ・就職は好調であるが、散見される卒業生の離職の実態調査実施の検討を行う必要がある。
- ・卒業生の活躍を十分に把握する必要がある、OB会の発足などの方法により、情報交換ができる場を作る必要がある。

8. 財務

●自己採点

5. 完璧4. かなり進んでいる3. 普通2. やや足りない1. ほとんど進んでいないNA. 当てはまらない

評価項目	平成30年度 評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	3
年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか	3
予算は計画に従って妥当に執行されているか	3
財務について会計監査が適正におこなわれているか	3
会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか	3
私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか	3
私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか	3

●現状

- ・予算案は妥当である。中期計画の策定ができている。
- ・事業計画に従って妥当に執行している。
- ・税理士による精査が随時適正に行われている。
- ・財務情報をホームページでも情報公開している。

●課題と改善策

- ・募集活動の強化、設備の改修等による入学者の増大。
- ・借入金の繰り上げ返済。

9. 法令等の遵守

(1) 自己採点

5. 完璧4. かなり進んでいる3. 普通2. やや足りない1. ほとんど進んでいないNA. 当てはまらない

評価項目	平成30年度 評価
法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか	3
法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	3
志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	3
自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めているか	3
自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか	3
自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	3
自己点検・自己評価結果は公開しているか	3
自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか	3
自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	3

●現状

- ・法令等の遵守については、適正な運営が行われている。
- ・法令、授業時間数、試験などについては教職員並びに学生に遵守するように啓発活動をしているが、学生においては不十分である。
- ・個人情報に関して教職員全員が、入学願書、資料請求などそれ以外の目的での使用はしていない。
- ・個人情報啓発活動を教職員と学生に実施しているが、学生への対応が完全ではない。
- ・自己点検・自己評価の実施を定期的継続的整備が必要である。

●課題と改善策

- ・啓発活動は引き続き実施していく。
- ・定期的に自己評価につき確認することにより、改善意識につながっており、結果として自己点検評価のレベルアップにつながるので、今後も継続し、精度向上の実現に努めていきたい。

10. 社会貢献・地域貢献

●自己採点

5. 完璧4. かなり進んでいる3. 普通2. やや足りない1. ほとんど進んでいないNA. 当てはまらない

評価項目	平成30年度 評価
広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流を図っているか	3
学校の資源を活用し、生涯学習事業や附帯教育事業を行っているか	1
学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか	3
諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発を行っているか	4
重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓蒙活動を行っているか	2
学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか	2
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
学生のボランティア活動の状況を把握しているか	2

●現状

- ・地域との連携・交流は不十分、企業や団体ともさらに積極的に連携・交流する必要がある。
- ・自主的にしているボランティア活動は把握できていない。
- ・毎年献血を実施している。
- ・徳育教育を積極的に行っている。
- ・教職員と学生で、共有スペースの清掃や除草作業を定期的に行っている。
- ・中学生を対象とした、トライやるウィークを要望があれば実施している。
- ・体育館の貸出を行っている。

●課題と改善策

- ・ボランティア活動の支援を行う必要がある。